

くまもと「親の学び」プログラム

～子育ては親育ち～

スマイル(小学生期)編



熊本県教育委員会

プログラム一覧

ステップ	プログラム番号	プログラム名	実施時間	形態	掲載ページ	スタート編との関連
ステップ 1	1	後出しじゃんけん	3分	全体 or グループ	P 1 3	資料編
	2	バランスをとろう	3分	全体	P 1 4	プログラム⑤
	3	リズムに合わせて動かそう ～指体操・腕体操～	3分	全体	P 1 5	プログラム⑤
	4	パンパンタッチ	5分	ペア	P 1 7	資料編
	5	聞いて、聞いて、リズムよく	5分	全体 or グループ	P 1 8	プログラム⑥
	6	それ、私！ (子育て版フルーツバスケット)	5分	全体	P 1 9	プログラム②
	7	だれだろう？何だろう？？	5分	全体 or グループ	P 2 0	資料編
ステップ 2	8	アイコンタクトで意思表示	15分	全体	P 2 2	—
	9	頼って信じてウォーキング	15分	ペア	P 2 4	—
	10	何と言ったかな？きいて、きいて！	15分	全体 or グループ	P 2 6	プログラム⑥
	11	トーク&トーク ～すごろく de 紹介～	20分	グループ	P 2 9	プログラム②
	12	話して！聞いて！ ～わいわいがやがやサイコロトーク～	20分	グループ	P 3 3	プログラム②
	13	あなたはどう考えますか？ ～1枚の絵から広がるイメージ～	20分	グループ	P 3 9	プログラム③
	14	わたしの考え、あなたの考え ～いろいろな考えを聞いてみよう～	20分	全体	P 4 3	プログラム①
ステップ 3	15	よく使う言葉は？ ～言葉の力について考えよう～	20分	個人+グループ	P 4 7	プログラム④
	16	これって「反抗期」？ ～子どもも成長、わたしも成長～	25分	グループ	P 5 2	プログラム③
	17	子育てで広がる夢・喜び ～子育ての歩みとこれから～	30分	個人+グループ	P 5 7	—
	18	わが家で大事にしたいこと	40分	個人+グループ	P 6 2	プログラム①
	19	ニコニコ、パクパク。わが家の食事！	40分	グループ	P 6 8	プログラム⑤
	20	伝え方のひと工夫 ～みんなの気持ちを考えて～	45分	全体+グループ	P 7 4	プログラム④
	21	だれにだって悩みはある ～一人で悩まず、話してみよう～	45分	グループ	P 8 1	プログラム②、⑥
	22	地域の子どもは地域みんなで育てよう ～ステキな「ひと・もの・こと」～	45分	グループ	P 8 6	—

【参考】

〇くまもと「親の学び」プログラムスタート編（乳幼児期編）

①わが家の家庭教育	②一人じゃないよ仲間がいるよ ～悩みも喜びも誰にでもある～
③子どもの気持ちと親のかかわり	④上手なほめ方・しかり方～伝え方のひと工夫～
⑤家族みんなで生活リズム	⑥上手な話の聞き方～聞き上手は子育て上手～

はじめに

子どもの健やかな成長は、すべての親の願いであり、また、社会全体の願いでもあります。

しかし、核家族化、少子化、都市化、地縁的なつながりの希薄化、また、近年は、携帯電話、インターネットの利用をめぐるネットいじめ、携帯電話依存症等の問題、子どもの基本的な生活習慣の育成に係る問題等、新たな家庭教育に関する課題も数多く生じてきており、子どもを取り巻く環境は日々変化しています。

そのような中、保護者が、子育ての悩みや喜びなどを気軽に話せる相手がいなかったり、子どもの発達段階や今日的な課題を含め、家庭教育について保護者が学ぶ機会が少なかったり、また、研修に積極的に参加する保護者が固定化しつつあるという実態もあります。

そこで、熊本県では、より多くの保護者が、親として学べる機会・親同士のつながりをつくる機会を増やすためには、保護者が集まる様々な機会に活用できる学習プログラムが必要であることから、「くまもと『親の学び』プログラム」の作成に平成21年度から取り組み、その普及に力を入れているところです。

このくまもと「親の学び」プログラムスマイル（小学生期）編は3つのステップで構成しています。ステップ1は、「親の学び」へのいざないとして、ステップ2は、保護者の「つながり」を大事にすることに主眼をおいたプログラム、そして、ステップ3では、「『親の役割』を見つめる」プログラムを取り入れ、小学生の子どもをもつ保護者の集まる機会に幅広く活用できるように内容・方法等を工夫しています。

本編は、小学生期の保護者が主な対象ではあるものの、乳幼児、就学前の園児や、中学生・高校生の保護者の方も十分活用できる内容になっています。

ぜひ、それぞれの立場から、身近な「親の学び」の場を広げ、子どもの健やかな成長につながるよう、本プログラムを積極的に御活用いただきますようお願いいたします。

平成23年3月

熊本県教育委員会

くまもと「親の学び」プログラム ～ スマイル（小学生期）編 ～

も く じ

I 基本編

- 1 くまもと「親の学び」プログラムスマイル（小学生期）編 …… P 1
とは？
- 2 参加体験型学習（ワークショップ）とは？ …… P 2
- 3 進行役（ファシリテーター）の役割 …… P 3
- 4 「親の学び」講座の組み立て方 …… P 4
- 5 プログラムの活用場面 …… P 5
- 6 プログラムの特徴や内容 …… P 6
- ★ コラム …… P10

II 展開編

- 1 ステップ1 …… P12
 - プログラム1 後出しじゃんけん …… P13
 - プログラム2 バランスをとろう …… P14
 - プログラム3 リズムにのって動かそう …… P15
～指体操・腕体操～
 - プログラム4 パンパンタッチ …… P17
 - プログラム5 聞いて、聞いて、リズムよく …… P18
 - プログラム6 それ、私！（子育て版フルーツバスケット） …… P19
 - プログラム7 だれだろう？何だろう？ …… P20
- 2 ステップ2 …… P21
 - プログラム8 アイコンタクトで意思表示 …… P22
 - プログラム9 頼って信じてウォーキング …… P24
 - プログラム10 何と言ったかな？きいて、きいて！ …… P26
 - プログラム11 トーク&トーク～すごろく de 紹介～ …… P29
 - プログラム12 話して！聞いて！ …… P33
～わいわいがやがやサイコロトーク～
 - プログラム13 あなたはどう考えますか？ …… P39
～1枚の絵から広がるイメージ～
 - プログラム14 わたしの考え、あなたの考え …… P43
～いろいろな考えを聞いてみよう～

3 ステップ3	・・・ P46
●プログラム15 よく使う言葉は？	・・・ P47
～言葉の力について考えよう～	
●プログラム16 これって「反抗期」？	・・・ P52
～子どもも成長、わたしも成長～	
●プログラム17 子育てで広がる夢・喜び	・・・ P57
～子育ての歩みとこれから～	
●プログラム18 わが家で大事にしたいこと	・・・ P62
●プログラム19 ニコニコ、パクパク。わが家の食事！	・・・ P68
●プログラム20 伝え方のひと工夫	・・・ P74
～みんなの気持ちを考えて～	
●プログラム21 だれにだって悩みはある	・・・ P81
～一人で悩まず、話してみよう～	
●プログラム22 地域の子どもは地域みんなで育てよう	・・・ P86
～ステキな「ひと・もの・こと」～	
○平成22年度 くまもと「親の学び」プログラム	・・・ P92
～子育ては親育ち～スマイル（小学生期）編	
作成検討委員	

別添 資料編

- 【導入】で活用するアイスブレイク
- いじめ対応の手引きより
 - 「子どものサイン発見チェックリスト」（家庭用）
- 熊本県不登校対策資料「ともに手をたずさえて」より
 - 不登校の未然防止～家庭での取組
- 一人で考えこまないで（相談機関の紹介）
 - ・すこやか子育て電話相談
 - ・その他の電話相談先
- くまもと家庭教育10か条
- 子ども輝き条例のポイント
- 関連ホームページや資料の紹介

Ⅰ 基本編



1 くまもと「親の学び」プログラム

スマイル（小学生期）編とは？

このプログラムは、主に、小学生の子どもをもつ保護者を対象とした参加体験型の家庭教育講座（「親の学び」講座）を進行するための解説書です。

「親の学び」講座では、小学校の教職員やPTA役員、学童保育や子育てサークル等の指導者、家庭教育支援や子育て支援にかかわっている方々が、進行役（ファシリテーター）となることができます。

進行役は、一方通行の講義をするのではなく、伝えたいねらいやメッセージを明確にしつつ、参加者の気づきをサポートし、参加者と一緒に講座をつくりあげていく役割があります。

本解説書では、プログラムの基本となる展開例等を示していますので、参加者の人数や講座の時間、保護者の要望に応じて、アレンジして活用してください。また、スタート編（乳幼児期編）の内容と組み合わせたり、関連をもたせたりすると、「親の学び」講座がより一層充実したものになるでしょう。

この「親の学び」講座を通して、子育て中の保護者が自信をもって、健やかな子どもを育てていこうという意欲を高め、親として大切なことを学ぶ一つの手がかりとなれば幸いです。

それぞれの機会に、このプログラムを活用していただき感想等をお寄せください。必要に応じて適宜増補していき、より充実した解説書にしていきます。



「キャンペーンロゴマーク」
「家庭」「地域」と「子ども」を組み合わせ、若葉のように健やかに伸びる子どもの明るい瞳と子どもを囲む家庭、地域のまなざしを表現しています。
安富 勝弘さん（熊本市）の作品

2 参加体験型学習（ワークショップ）とは？

「親の学び」講座は、参加体験型学習（ワークショップ）という形で行います。参加体験型学習では、講演会や講義のように、講師の話を参加者が一方向から聞いて学ぶのではなく、参加者同士で作業をしたり話し合ったりすることを通して、今まで気付かなかったことに気付いたり、大切なことを再認識したりすることができます。

☆参加体験型学習で大切なポイント

ポイント1 主体的な参加

参加者一人一人が「受け身」になるのではなく、それぞれが考え、発言をすることによって、これまで気付かなかったことに気付いたり、もともと知っていたことについて、改めて大切であることを確認したりすることができます。そのためには、一人一人が参加、発言しやすい雰囲気づくりが必要になります。

また、発言をためらっている参加者には「無理せず発言できるときに発言する」というスタンスで気軽に参加してもらうように配慮しましょう。

ポイント2 お互いに学び合う

グループ内で意見を出し合ったり、全員で気づきを発表したりする活動を通じて、多様な視点や考え方があることに気づき、ねらいについて学ぶことができますが、その際、お互いの意見を否定せずに聞く雰囲気をつくったり、発言を引き出すような進行役からの声かけなどが大切になります。

「参加者一人一人の意見によって、他の参加者の学びにつながっていく」という意識を持ってもらうことが大切です。そうすることによって、自分と違う価値観を持つ人の意見も受け入れやすくなることを伝えましょう。

3 進行役（ファシリテーター）の役割

参加体験型学習では、全体の流れを進めていく「進行役」（「ファシリテーター」ともいう）の役目が大切です。進行役は「講師」とは違い、自分の知識や考えを参加者に伝えることが役目ではなく、参加者同士の話し合いや作業がスムーズに行われるよう、参加者の様子を見ながら説明や声かけをし、参加者自身が「気づき」を得て何かを学ぶことを助けることが役目です。

このため、専門的な知識や特別な経験がない人でも、以下のようなことに気を付ければ、参加体験型学習の進行役になれます。

☆進行役に求められること

(1) 雰囲気づくり

- ・ 進行役は、笑顔が1番です。
自信をもってはっきりした声で、ゆっくりと話しましょう。
- ・ 話し合いの前に「正解や間違いはない」ことを参加者に伝えると、参加者は気が楽になり発言しやすく感じます。
- ・ 発言は、話せる範囲で話すといよいことを伝えましょう。参加者は安心して参加できます。
- ・ 参加者一人一人の人権が尊重され、安心して講座に参加できる場としましょう。

(2) 主体性の尊重

- ・ 参加者の意見を受けとめ、よく聞き明るく丁寧な言葉で対応する等、進行役が人権尊重の視点を常に持って進行することが大切です。
- ・ 参加者の意見を無理に一つにまとめる必要はありません。一人一人が何かに気付いたり、「なるほど」と再確認できたりすることを大切にするように促しましょう。
- ・ 進行役自身の考えを押しついたり参加者の発言を批判したりしないことが大事です。参加者一人一人の主体性を尊重しましょう。

(3) 流れの調整

①参加者に合わせた進行

- ・ 参加者が活動や作業の手順などを理解しているかどうか、確かめながら進めましょう。
- ・ 参加者の様子を見て、予定より時間が必要と判断した場合には、時間を延ばしましょう。用意した内容の全てを行う必要はありません。
(時間よりも早く進んでいる場合どうするか、時間が足りなくなりそのような場合どうするかを事前に考えておくと、その状況になったときに慌てなくてすみます。)

②テーマに沿った進行

- ・ 漠然と話し合いをするよりも、各プログラムの「テーマ」をはっきり示すことで、より話し合いが深まります。
- ・ 話題がテーマから離れた場合は、発言者の意見にも同調しながら、テーマに沿った話題に戻すように心がけましょう。

4 「親の学び」講座の組み立て方

「親の学び」講座を開催するとき以下のことを考えましょう。

1 講座開催の機会

いつ？

- ①単独で「親の学び」講座を開催する場合
例：P T A研修会や教育講演会、家庭教育学級 等
- ②他の目的のために集まり、その中の1つとして「親の学び」講座を開催する場合
例：学年・学級懇談会やP T A総会、部活動の保護者会、就学時健康診断や1日体験入学、学童保育の保護者会 等

2 集団の構成

だれと？

- ①同級生、同学年の子どもをもつ保護者の集まり
例：学年・学級懇談会、就学時健康診断、1日体験入学、学年・学級P T A活動 等
- ②異年齢集団（子ども）の保護者の集まり
例：P T A総会やP T A研修会、部活動総会、学童保育や子ども会の保護者会、地区懇談会 等

3 講座の設定時間

どのくらい？

- ①単独で「親の学び」講座を開催する場合
例：45分や60分の講座
- ②他の目的のために集まり、その中の1つとして「親の学び」講座を開催する場合
例：学年・学級懇談会の45分の中の20分間
P T A総会や部活動総会の始まる前の5分間 等

4 参加人数及び講座を行う場所

どこで？

- ・参加者は何名か。
- ・どこ（会場）で行うのか。会場は人数に対して適当な広さか。その際、机や椅子の有無はどうか。

5 プログラムの活用場面

このプログラムの主な対象は、小学生の子どもをもつ保護者です。ただし、乳幼児期の子どもをもつ保護者、中学生の子どもをもつ保護者の方にも十分活用できます。

【学校（小中学校）では・・・】

- ・学級、学年懇談会
- ・就学時健康診断
- ・学校行事（学習発表会や学年行事の始まる前）
- ・1日体験入学
- ・部活動総会の始まる前
- ・学年学級PTA活動（体験活動やレクリエーション）の始まる前
- ・PTA総会の始まる前
- ・PTA役員会、運営委員会
- ・PTA研修会（委員会ごとの研修会や全体の研修会で）や教育講演会
- ・地区懇談会
- ・校内研修 等

【学童保育や子育て

サークル等では・・・】

- ・保護者会
- ・説明会（会が始まる前や会の中で）
- ・遠足等の学童クラブの行事
- ・子育てサークルの定例会 等

【保育所、幼稚園では・・・】

- ・保育参観後
- ・保護者会
- ・遠足や発表会等の親が集まったとき（行事が始まる前の時間に）
- ・役員会（会が始まる前やその会の中の時間で） 等

【地域では・・・】

- ・町PTA連合会や郡市PTA連合会の研修会
- ・単位子ども会での親の集まり（総会や定期的な集まり）
- ・公民館講座や家庭教育学級
- ・青少年教育施設などで活動の始まる前 等

6 プログラムの特徴や内容

(1) ステップ1：「自分に気付く」 ～「親の学び」へのいざない～プログラム

① 特徴

- ゲームを通して気付きを得るもの、目的をもったゲーム的な活動です。
- PTA総会、研修会や部活動総会、学級懇談会等、何らかの集まりの場で、会の始まる前に簡単に行うものです。また、会の途中で取り入れることもできます。
- ステップ2やステップ3のプログラムの導入（アイスブレイク）として活用することもできます。
- 3～5分程度でできます。
- 子どもと一緒にできるので、子ども会の集まりや学童保育の保護者の集まりの時にも活用できます。

②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
1	後出しじゃんけん	3分	固定観念	進行役とのじゃんけんで必ず負けるように後出しをする。
2	バランスをとろう	3分	時間の感覚 継続	バランス立ちをしながら時間の経過を予測する。
3	リズムにのって動かそう ～指体操・腕体操～	3分	リズム 継続	リズムよく指や腕を左右異なるように動かす。
4	パンパンタッチ	5分	予測 相手に合わせて	2人組でリズムに乗って同じように手をたたいたり広げたりする。
5	聞いて、聞いて、 リズムよく	5分	きく	進行役と同じようにリズムカルに手拍子をする。
6	それ、私！（子育て版 フルーツバスケット）	5分	一人じゃないよ	子育てに関する経験をもとにしたフルーツバスケットをする。
7	だれだろう？ 何だろう？	5分	きく 正確な情報	進行役のヒントを手がかりに言葉の連想ゲームをする。

【事前の準備】

- 時間、場所、参加者の人数等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- 一斉にするかグループで行うか決める。

《プログラムの進め方》

- ①方法を知らせる。
- ②やってみる。
- ③ねらいを知らせる。

(2) ステップ2 : 「仲間を広げる」 ～「親同士」のつながり～プログラム

① 特徴

- ゲーム的な感覚で活動を行うことができ、気軽な気持ちで参加でき、他者とコミュニケーションができます。
- 参加者が、活動を通してこれまで以上にお互いに親しみを持ち、「つながる」「知り合いになる」ことができます。
- PTA役員会や部活動の各部の集まり、学年・学級懇談会、学童保育の保護者の集まりなど、いろいろな場で行うことができます。
- 主活動そのものを、アイスブレイクとすることができます。
- ステップ1のプログラムとの組合せを工夫すると効果的です。

②内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
8	アイコンタクトで意思表示	15分	コミュニケーション	身振り手振りなどを使ってグループに分かれ自己紹介をする。
9	頼って信じてウォーキング	15分	コミュニケーション	ペアで誘導役と目を閉じて歩く役になり、誘導に合わせて歩く。
10	何と言ったかな？ きいて、きいて！	15分	「聞く」と「聴く」	複数の人が同時に発する言葉を当てるゲームをする。
11	トーク&トーク ～すごろくde紹介～	20分	コミュニケーション	すごろくを使い、多様な課題をもとに自己紹介をする。
12	話して！聞いて！ ～わいわいがやがや サイコロトーク～	20分	コミュニケーション	サイコロの出た目の話題をもとに自己紹介をする。
13	あなたはどうか考えますか？ ～1枚の絵から広がる イメージ～	20分	多様な見方	1枚の絵を協力して完成し、気付きを話し合う。
14	わたしの考え、あなたの 考え～いろいろな考えを 聞いてみよう～	20分	いろいろな考え	問題に対し自分の考えを明らかにし、グループで話し合う。

【事前の準備】

- 時間、場所、参加者等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- 準備物等は事前に必要数を調べ、やや多めに用意する。

《プログラムの進め方》

- ①活動の方法を知らせる。
- ②やってみる。
- ③感想をお互いに発表し合う。
- ④ねらいを知らせる。

(3) ステップ3 : 「仲間と深める」 ～「親の役割」を見つめる～プログラム

① 特徴

- P T A 研修会や地区懇談会、学年・学級懇談会に研修として活用することができます。
- 親の役割等についてじっくり考えることのできるプログラムです。
- 参加者が、ロールプレイやケーススタディで、自分の考えを話したり、他の人の意見を聞いたりすることを通して、自分自身を見つめることができます。
また、新しい価値観に触れたり、これまでの子育てを再確認したりすることで、子育てに対する不安や悩みを軽くしたり、子育てに自信をもつことができるようになったりします。
- ステップ1やステップ2のプログラムと組み合わせると効果的です。

② 内容等

プログラム番号	プログラム名	実施時間	キーワードの例	内容
15	よく使う言葉は？～言葉の力について考えよう～	20分	言葉の力	日ごろ使っている言葉をワークシートを使って振り返り、言葉のいろいろな力について話し合う。
16	これって「反抗期」？～子どもも成長、わたしも成長～	25分	親のかかわり方	子どもの気持ちに寄り添ったかかわり方について事例をもとに考え、話し合う。
17	子育てで広がる夢・喜び～子育ての歩みとこれから～	30分	歩みと見通し	子育てに対する気持ちの移り変わりをマインド曲線で表し、子育てに対する思いを話し合う。
18	わが家で大事にしたいこと	40分	わが家の1か条	子育てで大切にしていることをランキングし、その理由を話し合う。
19	ニコニコ、パクパク。 わが家の食事！	40分	食生活	食生活で大切にしていることをエピソードをもとに確認し、互いの食生活を紹介しあう。
20	伝え方のひと工夫 ～みんなの気持ちを 考えて～	45分	コミュニケーション	お互いが嫌な気持ちにならない対応の仕方についてワークシートをもとに考え、話し合う。
21	だれにだって悩みはある ～一人で悩まず、 話してみよう～	45分	悩みの共有	いろいろな悩みへのアドバイスを通して、悩みがあるのは自分だけでないことや多様な考えがあることを話し合う。
22	地域の子どもは地域みんな で育てよう～ステキな 「ひと・もの・こと」～	45分	地域のよさ、ひと・もの・こと	作業を通して、自分たちの住んでいる地域の人のつながりを含めた「よさ」について話し合う。

【事前の準備】

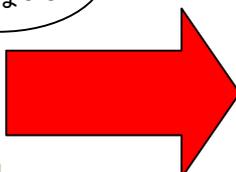
- 時間、場所、参加者等を考慮して、どのプログラムを活用するか決める。
- ステップ1のプログラムやステップ2のプログラムとの組合せができるかどうか考える。
- ワークシートなどの準備物がある場合は、事前に必要数を調べ、やや多めに用意する。
- 掲示用のキーワードは1度作成したら保管しておき、次回からの講座で活用するようにする。

《進め方》

1 「活動のねらい」を確かめます



今日の活動の
ねらいは・・・



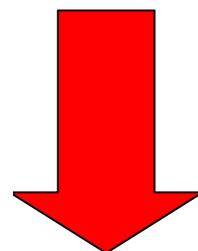
なるほど
なるほど

キーワードを提示して、
活動のねらいを説明します。

2 アイスブレイクをします



簡単なゲームで、
心と体をほぐします。



4 「活動のまとめ」をします

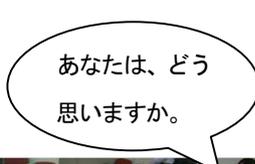


今日は、「わが家の1か条」
を作りましたね・・・

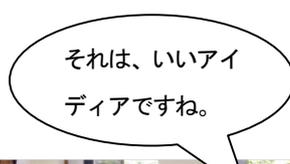


活動を振り返り、まとめをします。

3 グループで活動をします



あなたは、どう
思いますか。



それは、いいアイ
ディアですね。



▼グループワーク



▲グループでの話し合い



これは、こちら
ですね。

☆受講者、進行役、だれもが気を付けることは、すべての人の人生に敬意を払うことです。参加者のだれもが安心して話せるように、講座中に聞いたプライベートな情報を他の場所で話すことは厳に慎むよう参加者に伝えましょう。

コラム

○くまもと「親の学び」プログラムスマイル（小学生期）編では、言語コミュニケーションを中心としたプログラムと非言語コミュニケーションを中心としたプログラムがあります。

コミュニケーションには、大きく2つの種類があるとされています。

①言語コミュニケーション

（「バーバルコミュニケーション」とも言われています。）

- ・自分の考えを書いたり話したり、また、他の人の意見を聞いたりする活動、会話や文字等、言語を用いたコミュニケーションのこと

②非言語コミュニケーション

（「ノンバーバルコミュニケーション」とも言われています。）

- ・動作（ジェスチャー）、身振り手振り、顔の表情や声の大きさ・トーン等、言語を用いないコミュニケーションのこと

○くまもと「親の学び」プログラムスマイル（小学生期）編には、非言語コミュニケーションのプログラムがあります。

ステップ	プログラム番号	プログラム名
1	1	後出しじゃんけん
	2	バランスをとろう
	3	リズムにのって～指体操・腕体操～
	4	パンパンタッチ
	5	聞いて、聞いて、リズムよく
	6	それ、私！（子育て版フルーツバスケット）
2	8	アイコンタクトで意思表示
	9	頼って信じてウォーキング

○非言語コミュニケーションプログラムを実施するときには、以下の点に気を付けましょう。

- ①楽しく活動することができますが、活動を通して「何を伝えたいか」「ねらいは何か」をしっかりと伝えたり感じ取らせたりすることが必要です。
- ②感じたことを「日常生活に活かしていこうとする気持ち」を持たせることも必要です。
進行役が話をするとき、生活と結び付けた話をするとよいでしょう。

II 展開編



ステップ1

**「自分に気付く」
～「親の学び」へのいざない～**

☆このような機会
活用できます！

☆各種会合が始まる前の時間や始まってすぐの
わずかな時間

- 学年・学級懇談会や地区懇談会
- 部活動総会や各部ごとの保護者の集まり
- 就学時健康診断や1日体験入学
- PTA総会や教育講演会
- PTA役員会やPTA研修会
- 学童保育の保護者の集まり
- 子ども会の集まり

※子どもと一緒にできます。



【プログラム1:後出しじゃんけん】

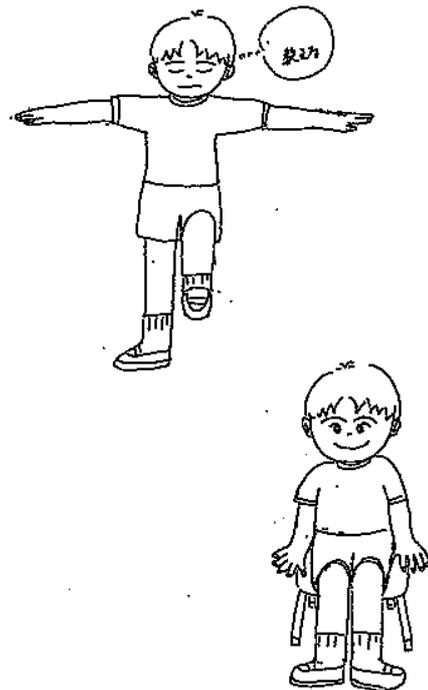
☆ねらい：後出しじゃんけんを通して、自分もっている視点を変えると、今までとは感じ方が違うことに気付く。

キーワードの例	固定観念
時 間	3分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体（グループごとやペアでもできる）
準備物	なし
主な活動	①後出しじゃんけんをする。 ②振り返りをする。
気を付けること	○手の怪我等で同じように活動できない参加者がいることも考慮して、「できる範囲で活動する」といいことを参加者に伝える。
方 法	<p>①進行役が先にグー、チョキ、パーのどれかを出す。</p> <p>②そのあと、進行役に負けるようにじゃんけんをする。</p> <p>③前述の後出しじゃんけんを両手でリズムよく行う。</p> <p>④振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>⑤ねらいを話す。</p>
備 考 (アレンジ等)	○両手後出しじゃんけんでは、進行役に「両手とも勝つ」「両手とも負ける」「片手は勝つ、片手は負ける」等がある。
スタート編との 関連	資料編「後出しじゃんけん」

【プログラム2:バランスをとろう】

☆ねらい：バランス立ちを通して、時間の使い方を見直したり継続することの大切さに気付いたりする。

キーワードの例	時間の感覚、継続
時間	3分
人数	何人でもできる。
活動形態	全体
準備物	なし
主な活動	①バランス立ちをする。(30秒間または1分間) ②振り返りをする。
気を付けること	○危険防止のため、椅子に座るときは目を開ける。
方法	<p>①その場に立ち、片足になる。 両手は水平に広げ、バランスをとる。</p> <p>②目を閉じて、時間をカウントする。</p> <p>③設定時間が経過したと思ったら座る。</p> <p>※進行役は手を挙げて座っている参加者に時間が経過したことを知らせる。</p> <p>④振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>⑤ねらいを話す。</p>
備考 (アレンジ等)	○バランス立ちをしなくて目を閉じて立ち、設定時間が経過したら座るというやり方もできる。
スタート編との 関連	プログラム⑤家族みんなで生活リズム



【プログラム3:

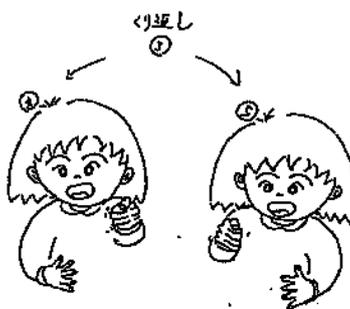
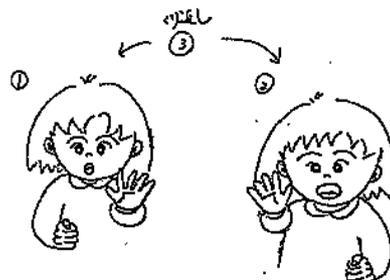
リズムにのって動かそう～指体操・腕体操～

☆ねらい：指体操・腕体操のリズミカルな動きを通して、継続していくことの大切さや生活リズムの大切さに気付く。

キーワードの例	リズム、継続
時 間	3分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体
準備物	なし
主な活動	①指体操や腕体操をする。 ②振り返りをする。
気を付けること	○初めはゆっくり、そしてだんだんスピードアップする。ゆっくり行い、参加者に満足感をもたせる。
指体操の方法	<p>①両手ともグーをする。</p> <p>②まず、親指を立てる。</p> <p>③「せえの」で小指と入れ替える。</p> <p>④これを数回繰り返す。</p> <p>⑤そのあと、右手と左手の動作を逆にする。右手が親指を出す時は、左手は小指。</p> <p>⑥「せえの」で右手が小指になり、左手が親指になる。</p> <p>⑦これをリズムよく繰り返す。</p> <p>⑧振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>⑨ねらいを話す。</p>
備 考 (アレンジ等)	○別添資料編【導入】で活用するアイスブレイク「こっちのリズム、あっちのリズム」を合わせることもできる。
スタート編との 関連	プログラム⑤家族みんなで生活リズム

腕体操の方法

- ①右手はグーを作っておなかの前に置く。
 - ②左手はパーを作って顔の前に突き出す。
 - ③「せえの」で手を入れ替える。
手が右でも左でも、おなかの前はグー、顔の前はパーになるようにする。
 - ④数回したら、おなかの前がパー、顔の前がグーになるようにしてリズムよく繰り返す。
 - ⑤振り返りを行う。
「やってみてどうでしたか。」と問いかける。
 - ⑥ねらいを話す。
- ※手を入れ替える時に、「ハッ」「ヨッ」「グー」「パー」など声を出すと盛り上がる。



備考
(アレンジ等)

- 《腕体操アレンジ版》
- ①両手でそれぞれグーを作る。
 - ②右が上で左が下になるように、グーの手を重ねる。
 - ③進行役が「ハイ」と言ったら、下の方の手を上にもってくる。
 - ④「イハ」と言ったら、上の方にある手を下にもっていく。
 - ⑤「ハイ」や「イハ」をリズム繰り返す。
 - ⑥振り返りを行う。
「やってみてどうでしたか。」と問いかける。
 - ⑦ねらいを話す。

【プログラム4:パンパンタッチ】

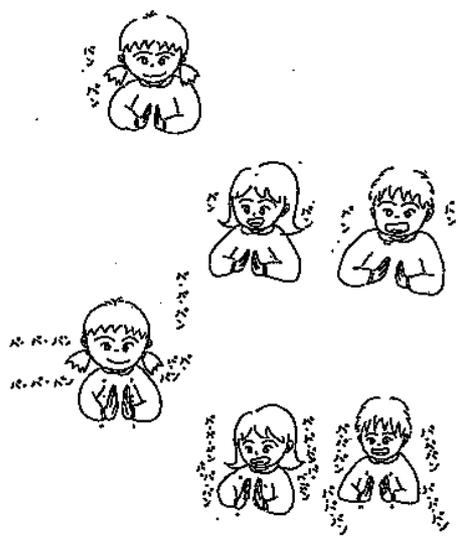
☆ねらい：2人組でリズムに乗って同じように手をたたいたり広げたりする活動を通して、自分の思い込みで考えたり行動したりすると誤解することがあることに気付く。

キーワードの例	予測、相手に合わせて
時 間	5分
人 数	何人でもできる。
活動形態	ペア
準備物	なし
主な活動	①2人組でパンパンタッチをする。 ②振り返りをする。
気を付けること	○うまくいかないペアがいたら、個別に声をかけたり、全体の状況を見てペアを交代したりする。
方 法	<p>①二人組で、お互いに向かい合う。</p> <p>②1, 2, 3, 4のリズムにあわせて手拍子をする。</p> <p>③3拍目にどちらかが、好きな所に手を広げる。</p> <p>④ペアは4拍目に、相手の手に自分の手を合わせるように、好きな所へ広げる。</p> <p>⑤上記をリズムを崩さないように続ける。先に手を広げる人は、交代する。</p> <p>⑥振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>⑦ねらいを話す。</p>
備 考 (アレンジ等)	<p>○1, 2, 3, 4のリズムをとるとき、「パン (①) パン (②) タッチ (③) (タッチ) (④)」と言いながらすると、お互いの呼吸も合い、場も和む。</p> <p>○リズムの取り方の工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣れたら速いリズムにする。 ・数回繰り返す中でも速くしたりゆっくりしたりする。 <p>○目標回数を設定すると意欲が高まる。 例：「10回リズムよく続けましょう」と呼びかける。</p>
スタート編との 関連	資料編「パンパンタッチ」

【プログラム5:聞いて、聞いて、リズムよく】

☆ねらい：進行役のリズムと同じリズムで手拍子をする活動を通して「聴く」ことの大切さを感じ、「聞く」と「聴く」の違いに気付く。

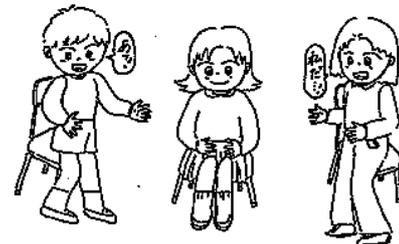
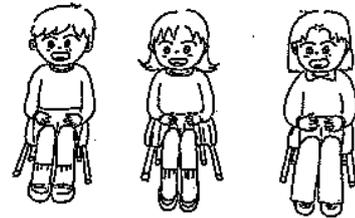
キーワードの例	きく
時 間	5分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体からグループ
準備物	なし
主な活動	①進行役と同じように手拍子をする。 ②振り返りをする。
気を付けること	○進行役の手拍子の音が、参加者全員に聞こえるように気をつける。
方 法	<p>①進行役が先に手拍子（リズム打ち）をし、参加者が同じように手拍子をする。</p> <p>②いろいろなリズムで数回繰り返す。</p> <p>③グループで同じようにやってみる。</p> <p>④振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>⑤ねらいを話す。</p>
備 考 (アレンジ等)	<p>○「かけ声つき」で行うと盛り上がる。 ※「かけ声つき」とは？ 手拍子と同じリズムの音を出すこと。 例：「パン、パン、パパン」と言いながら手拍子</p> <p>○グループで行う時は、先に手拍子（リズム打ち）する人は、数回ごとに交代する。</p>
スタート編との 関連	プログラム⑥上手な話の聞き方～聞き上手は子育て上手～



【プログラム6:それ、私！ (子育て版フルーツバスケット)】

☆ねらい：進行役の指示のもとに席を移動する活動を通して、子育てに関して嬉しい気持ちや困った経験があるのは自分だけではないことに気付く。

キーワードの例	一人じゃないよ
時 間	5分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体
準備物	椅子があった方がよい。
主な活動	①子育て版フルーツバスケットをする。 ②振り返りをする。
気を付けること	○席を移動するので、床に荷物や邪魔になるものがないか確認する。 ○プライベートな内容や移動するであろう人が限定されるような出題にならないようにする。
方 法	<p>①進行役が、子育てに関して感じていることや経験などを1つ言う。 例：「子どもが初めてしゃべった言葉は『ママ』だった。」 「どうして言うことを聞いてくれないのと思ったことがある。」等</p> <p>②参加者は、自分も同じ思いや経験があれば、席を移動し、他の人のところに座る。</p> <p>③座ったら、両隣の人と軽く会釈をする。</p> <p>④キーワード（例：親の学び）を、進行役が言ったら、全員が席が変わる。</p> <p>⑤振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>⑥ねらいを話す。</p>
備 考 (アレンジ等) スタート編との 関連	○人数を決めた複数の円（例：1グループ8人）を作り、移動するときは、別の円に移動するというアレンジもいろいろできる。 プログラム②一人じゃないよ仲間がいるよ ～悩みも喜びも誰にでもある～



【プログラム7:だれだろう?何だろう??】

☆ねらい：言葉のヒントを手がかりに想像する活動を通して、相手が何を伝えようとしているのかを理解するためには、話をしっかり聞くことが大事であることに気付く。

キーワードの例	きく、正確な情報
時 間	5分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体
準備物	なし
主な活動	①進行役のヒントをもとに連想ゲームをする。 ②振り返りをする。
気を付けること	○参加者が知っているものを出题する。
方 法	<p>①進行役は、ヒントの数を予め参加者に伝える。 例：「ヒントは3つです。」等</p> <p>②ヒントを言う。 出題例： <ul style="list-style-type: none"> ・人物 ・建物 ・食べ物 ・動物 等 例：「ヒントは、1赤い、2まるい形、3歯ごたえはしやきしやきです。」</p> <p>③参加者は、「何か」を考える。</p> <p>④答え合わせをする。 例：だれかに答えてもらう。 グループで考えたことを話してもらう。</p> <p>⑤振り返りを行う。 「やってみてどうでしたか。」と問いかける。</p> <p>⑥ねらいを話す。</p> 
備 考 (アレンジ等)	<p>○グループを作り、その中で「出題者と回答者に分かれる」という方法がある。</p> <p>○出題を参加者が行うときには、「伝えたいことを正確に伝えることの難しさ」も感じてもらう。</p>
スタート編との 関連	資料編「聖徳太子ゲーム」

ステップ2

「仲間を広げる」 ～「親同士」のつながり～

☆このような機会
活用できます！

☆各種会合、保護者の集まりで活用できます。

- 学年・学級懇談会や地区懇談会
- 部活動の各部ごとの集まり
- 就学時健康診断や1日体験入学
- PTA研修会やPTA役員会
- 学童保育の保護者の集まり
- 子ども会の保護者の集まり

※参加者同士がこれまで以上に、
お互いに「親しみ・つながり」を
持つことができます。



【プログラム8:

アイコンタクトで意思表示】

☆ねらい：アイコンタクトや身振り手振り等を使って活動する活動を通して、自分の意志を表す有効な手段であることに気づき、これからの子育てや周りの人との関係づくりに役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	15分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全員で動く、動ける場所が必要（教室でもよい）
準備物	○色カード ・（3～4色、参加者1人に1色1枚） ・会場掲示用の色カード（1枚ずつ）
主な活動	①アイコンタクトや身振り手振りを使って動く。 ②感想を紹介する。 ③いろいろな「表情」をする。
気を付けること	○場所の広さや安全面に対する配慮をする。 ・参加者の人数に対しての広さ ・置いてある荷物 等
備 考	○用いるカードは、「色」でなくても、動物や果物等のカードでもよい。
スタート編との 関連	なし

【プログラム8：アイコンタクトで意思表示】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
12分	全体	<p>2. 全員で「アイコンタクトで意思表示」をする。【9分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○進行役は、参加者の背中（眉間）に1枚の色カードを貼る。 本人には、色を知らせない。</p> <p>○会場にも同じ色カード（大）を1枚貼る。</p> <p>○進行役の合図で、参加者は進行役の合図で、話さずアイコンタクトや身振り手振りで意思表示をし、自分の色を考える。</p> <p>○参加者は、会場に貼られた自分の色の所に集まる。</p> <p>○全員がそろったら、自己紹介をする。</p> </div> <p>全体 (2) 注意事項を確認する。〈1分〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全に気をつける。 ・困っている人には、みんなで助け合うように促す。 <p>全体 (3) 進行役の合図で行う。〈7分〉</p>
	全体	<p>3. 感想を紹介する。【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ【2分】</p> <p>①「いろいろな表情」をする。 〈1分〉</p> <p>○「嬉しい顔」「怒った顔」「笑い顔」「集中している顔」を進行役の言葉に合わせてやってみる。</p> <p>全体 ②まとめを聞く。 〈1分〉</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>・自分の気持ちを伝えるには、「ことば」が有効な手段である。 また、アイコンタクトや表情、身振り手振りも自分の意志を伝える手段として有効である。</p> </div>

【プログラム9：頼って信じてウォーキング】

☆ねらい：2人組で誘導役と歩く役を交代しながら行う活動を通して、互いに信頼しあえる関係を作るには、コミュニケーションが必要であることを再認識し、これからの生活に役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	15分
人 数	何人でもできる。
活動形態	2人組で動く、動ける場所が必要（教室でもよい）
準備物	○ハンカチ等（参加者が目隠しをするために使う）
主な活動	①2人組で、誘導する役、目隠しで歩く役を交代しながらウォーキングをする。 ②動き方を変えて、もう一度行う。（交代して行う。） ③感想を紹介する。
気を付けること	○ブラインドウォークには本来いくつかのねらいがあるが、本プログラムではコミュニケーションの重要性を認識することが主目的であることを参加者に理解させる。 ○場所の広さや安全面に対する配慮をする。 ・参加者の人数に対しての広さが適切か考える。 ・動く場所に置いてある物で危険が予想されるものは取り除く。 ・速さにとらわれないように気を付けさせる。
備 考	○ハンカチ等がない場合は、目を閉じて行うことができる。
スタート編との関連	なし

【プログラム9：頼って信じてウォーキング】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
12分	全体	<p>2. 全員で「頼って信じてウォーキング」をする。【10分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ○参加者は2人組になる。(誘導役と歩く役) ○歩く役は、ハンカチ等で目隠しをする。 ○もう1人の誘導役は、手をつなぎ、会場を1回りする。 ○1回りしたら、交代する。 ○2人とも1回目が済んだら、2回目を行う。 ○2回目は、1回目と違うルートで1回りする。 </div> <p>(2) 注意事項を確認する。〈1分〉</p> <p>○誘導役は、ペアが他の参加者や机等にぶつからないように声をかけたり、つないだ手を握ったりしながら誘導する。</p> <p>○会場に危険な物がないように安全面を確認する。</p> <p>ペア (3) 進行役の合図で行う。〈8分〉</p> <p>○「誘導役」、「歩く役」を交代しながら2回ずつ行う。</p> <p>○時間が不足する場合は1回で終了してもよい。</p>
	全体	<p>3. 感想を紹介する。【2分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・相手が安心できるような関係を作るには、コミュニケーションが大事であり、自分だけの思いを伝える一方通行ではなく、双方から意思表示をすることが必要である。 </div>

【プログラム10:

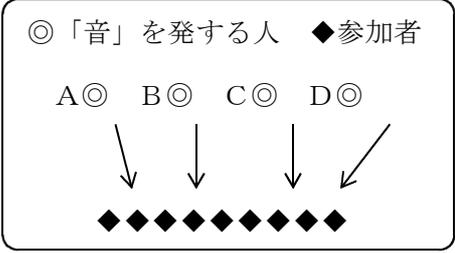
何と言ったかな？きいて、きいて！】

☆ねらい：言葉当てゲームを通して、相手が何を伝えたいかを理解するには相手を見てしっかり聞くことが大事であることを再認識し、これからの子育てや生活に役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	「聞く」と「聴く」
時 間	15分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体（グループでもできる）
準備物	なし
主な活動	①「何と言ったかな？きいて、きいて！」（言葉当てゲーム）をする。 ②感想を紹介する。
気を付けること	○だれもが知っている「ことば」を出題する。 ○答えを考えるとき、グループで考えるようにすると、「協力し合う」大切さを体感してもらうことができる。
備 考	○進行役対参加者という形態のときは、「ことば」の数だけ「音」を発する人が必要になるので、参加者に「話し手」役を協力してもらう。 ○グループの中で、「話し手」「聞き手」に分かれたり、グループ対抗で「話し役」「聞き役」に分かれたりしてもよい。 ○3文字の言葉や4文字の言葉など、「言葉リスト」を用意しておくこと、進行がスムーズにできる。
スタート編との関連	プログラム⑥：上手な話の聞き方 ～聞き上手は子育て上手～

【プログラム10：何と言ったかな？きいて、きいて！】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○「聞く」と「聴く」</p>
12分	全体	<p>2. 言葉当てゲームをする。【9分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>○「ことば」の数だけ「音」を発する人が必要。</p> <p>○例：「くまもと」→音を発する役4人</p> <p>○1人1文字ずつ割り当てる。 (Aさん→く Bさん→ま Cさん→も Dさん→と)</p> <p>○進行役の合図で、「音」を発する4人は、自分の割り当てられた「音」を同時に発する。</p> <p>○参加者は、4人の「音」をしっかり聞き、言葉をつなげ熟語を当てる。</p> <p>※答えは、1人で考えてもよいし、数名のグループで一緒に考えるようにしてもよい。</p> </div>  <p>全体 (2) 進行役の合図で行う。〈8分〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数回行う。(文字数の少ない言葉から始めると参加者もわかりやすい) <p>全体 3. 感想を紹介する。【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の話を何気なく聞くと、何を伝えたいのか十分わからないことがある。しっかり聴くには、「相手を見て聴く」というと心構えをもつことが大事である。 ・「聞く」と「聴く」のどちらで子どもの話を聞いているだろうか。 </div>

《プログラム10：何と言ったかな？きいて、きいて！》

【補助シート】

[出題に関する留意点]

☆言葉の文字数（「音」）が多くなると難しくなる。

☆促音、拗音、長音が入ると難しくなる。

例：「がっこう」「しゃしん」「カレーライス」

☆1つの熟語の中に同じ「音」が複数入ると難しくなる。

例：「かんばん」「たんぽぽ

《言葉の例》※地域の名前や季節に関する言葉、食べ物等何でもよい。

◇ 3文字の言葉

- | | |
|------|------|
| ・あひる | ・うちわ |
| ・きりん | ・コアラ |
| ・すいか | ・つくえ |
| ・テレビ | ・とけい |
| ・アイス | ・パンダ |
| ・だんご | ・カラス |

◇ 4文字の言葉

- | | |
|-------|-------|
| ・くまもと | ・えんぴつ |
| ・ひまわり | ・おにぎり |
| ・だいこん | ・たいやき |
| ・ネクタイ | ・マラソン |
| ・ハンカチ | ・くわがた |
| ・パソコン | ・まんざい |

◇ 5文字の言葉

- | | |
|--------|--------|
| ・ありがとう | ・くるまえび |
| ・こんにちは | ・カブトむし |
| ・こいのぼり | ・ひなまつり |
| ・ながれぼし | ・ゆうえんち |
| ・ぬいぐるみ | ・あさごはん |
| ・プレゼント | ・シンデレラ |

【プログラム11: トーク&トーク～すごろくde紹介～】

☆ねらい：すごろくを使って自分を紹介し合うことを通して、互いを知り
互いを認め、子育てに関する思いを共有し、つながりを深める。

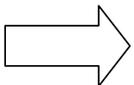
《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	サイコロ、すごろくシート、（それぞれグループ数） コマ（人数分）
主な活動	①すごろくを使って自己紹介をする。 ②感想や印象に残った意見を、他のグループの人に紹介する。
気を付けること	○「可能な範囲で話すことよいこと」「話せないときは、『パス』をしてもいいこと」を話し、安心感をもって参加してもらおうようにする。 ○全員が同じように話すことができるようにする。（1回につき約30秒程度と決めた方がよい。）
備 考	○書く活動はないので、座談会形式でもできる。
スタート編との 関連	プログラム②：一人じゃないよ、仲間がいるよ

【プログラム11：トーク&トーク～すごろく d e 紹介～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
17分	全体	<p>2. すごろくを使って自己紹介をする。【14分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <p>○サイコロの出た目の数だけすごろくを進め、とまった場所の話題を話す。</p> <p>全体 (2) 注意事項を確認する。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>○可能な範囲で話す。</p> <p>○場合によっては、「パス」をしてもよい。</p> <p>○1人の話が長すぎないようにする。(1回の発言は30秒以内で)</p> <p>○誰かが話しているときは、しっかり聴く。</p> <p>(相手を見る、うなづく、微笑む 等も含む)</p> <p>○誰かが話し終わったら、拍手をする。</p> </div> <p>グループ (3) グループごとに始める。〈12分〉</p> <p>・活動の時間を決め、その時間で進んだ所までとする。</p>
	全体	<p>3. 感想や印象に残った意見を他のグループにも紹介する。【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>・いろいろなことを紹介し合うことで、お互いが身近に感じられるようになったのではないか。</p> <p>・同世代の子どもをもつ親は喜びも悩みも共有できる。一人で抱え込まないで、これを機に、参加者のつながりを深めていこう。</p> </div>

スタート



好きな食べ物は何？

好きな色は何？

今一番、行ってみたいところは？

グループの人と握手をしよう！

今、ほしいものは？

苦手なことは？

ストレス発散法は？

最近、どんなことで子どもをほめた？

人生で最もこわかった思い出は？

ラッキー3つ進む

歌を歌うのと聴くのと、どっちが好き？なぜ？

子どもの頃の夢は？

宝くじにあたったら？

苦手な食べ物は何？

本日一番の笑顔を見せてよう！

小学生時代の思い出は？

今、一番やりたいことは？

声を出して笑ってみよう！

幸せと感じる時は？

朝、どうやって子どもを起こす？

子どものことで、嬉しかったことは？

最近、どんなことで子どもを叱った？

ゴール

子育て版

ラッキーチャンス！
誰かがこの枠にとまったら、他の人も話せるよ。話をした人は全員2つ進めるよ。

自由トーク

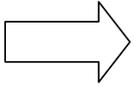
最近、嬉しかったことは？

子育てで気になることは？

子ども(家族)に一番言いたいことは？

自分が頑張っていると思うことは？

スタート



好きな食べ物
を3つ紹介
しよう。

得意と思
っている
ことは？

今一番、
行ってみ
たいとこ
ろは？

グループ
の人と握
手をしよ
う！

ラッキー！
3つ進む

本日一番の
笑顔を見せ
よう。

小学生時
代の思い
出は？

今、一番や
りたいこ
とは？

声を出し
て笑って
みよう！

幸せと感
じるとき
は？

ストレス発
散法は？

宝くじにあた
ったら？

ゴール

一般版

ラッキー！
3つ進む

人生で最もこ
わかった思
い出は？

言ってほ
しい言葉
は？(誰か
ら、何
と?)

最近、嬉し
かったこ
とは？

★パスもできるよ。
★1回の発言は30秒以内で。

苦手な食
べ物や苦
手なこと
は？

子どもの
頃の夢
は？

呼ばれた
名前(言
い方)は？

今、ほしい
ものを2
つ紹介し
よう。

自分が頑張
っている
と思うこ
とは？

歌を歌うのと聴
くの、どっちが
好き？なぜ？

【プログラム12:

話して！聞いて！

～わいわいがやがやサイコロトーク～】

☆ねらい：サイコロの出た目の話題を話す活動を通して、互いを知り互いを認め、子育てに関する思いを共有し、つながりを深める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	サイコロ、補助シート、（それぞれグループ数）
主な活動	①サイコロトーク（順番にサイコロを振り、出た目の話題を話す。）をする。 ②感想や印象に残った意見を他のグループの人に紹介する。
気を付けること	○「可能な範囲で話すとよいこと」「話せないときは、『パス』をしてもいいこと」を話し、安心感をもたせる。 ○全員が同じように話せるようにする。（1回につき約30秒程度と決めた方がよい。）
備 考	○書く活動はないので、座談会形式でもできる。 ○参加者の構成や学校・学級、その他実施対象の保護者に合わせて話題は変更することもできる。
スタート編との関連	プログラム②：一人じゃないよ、仲間がいるよ

【プログラム12

話して！聞いて！～わいわいがやがやサイコロトーク～

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
17分	全体	<p>2. サイコロトークをする。【14分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <p>○参加者が自分でサイコロを振り、出た目の数の話題について話す。</p>
	全体	<p>(2) 注意事項を確認する。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>○可能な範囲で話す。</p> <p>○場合によっては、「パス」をしてもよい。</p> <p>○1人の話が長すぎないようにする。(1回の発言は30秒以内で)</p> <p>○誰かが話しているときは、しっかり聞く。</p> <p>(相手を見る、うなずく、微笑む 等も含む)</p> <p>○誰かが話し終わったら、拍手をする。</p> <p>○参加者のプライバシーにかかわるものは、勝手に他の人に話さない。</p> </div>
	グループ	<p>(3) グループごとに始める。〈12分〉</p> <p>・参加者の属性に応じて話題を工夫する。(補助シート参照)</p>
	全体	<p>3. 感想や印象に残った意見を他のグループにも紹介する。【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; border-radius: 15px; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・お互いが身近に感じられるようになったのではないか。 ・同世代の子どもをもつ親は、喜びも悩みも共有できる。 ・これを機に、参加者のつながりを深めていく。 </div>

話して！聞いて！

～わいわいがやがやサイコロトーク～

◇サイコロトークの進め方と話題

★進め方：参加者が自分でサイコロをふって、出た目の数の話題を話す。

★話題

【Aバージョン：参加者のつながりをもつ、初対面が多い自己紹介型】

サイコロの目の数	話 題
1	好きなもの or すきなこと
2	宝くじがあたったら
3	苦手なもの or 苦手なこと
4	今、欲しいもの
5	子ども（家族のだれか）を一言紹介
6	アクション （グループの人と握手をする、笑顔を見せる、声を出して笑う等）

【Bバージョン：参加者のつながりを深める、顔見知り仲間型】

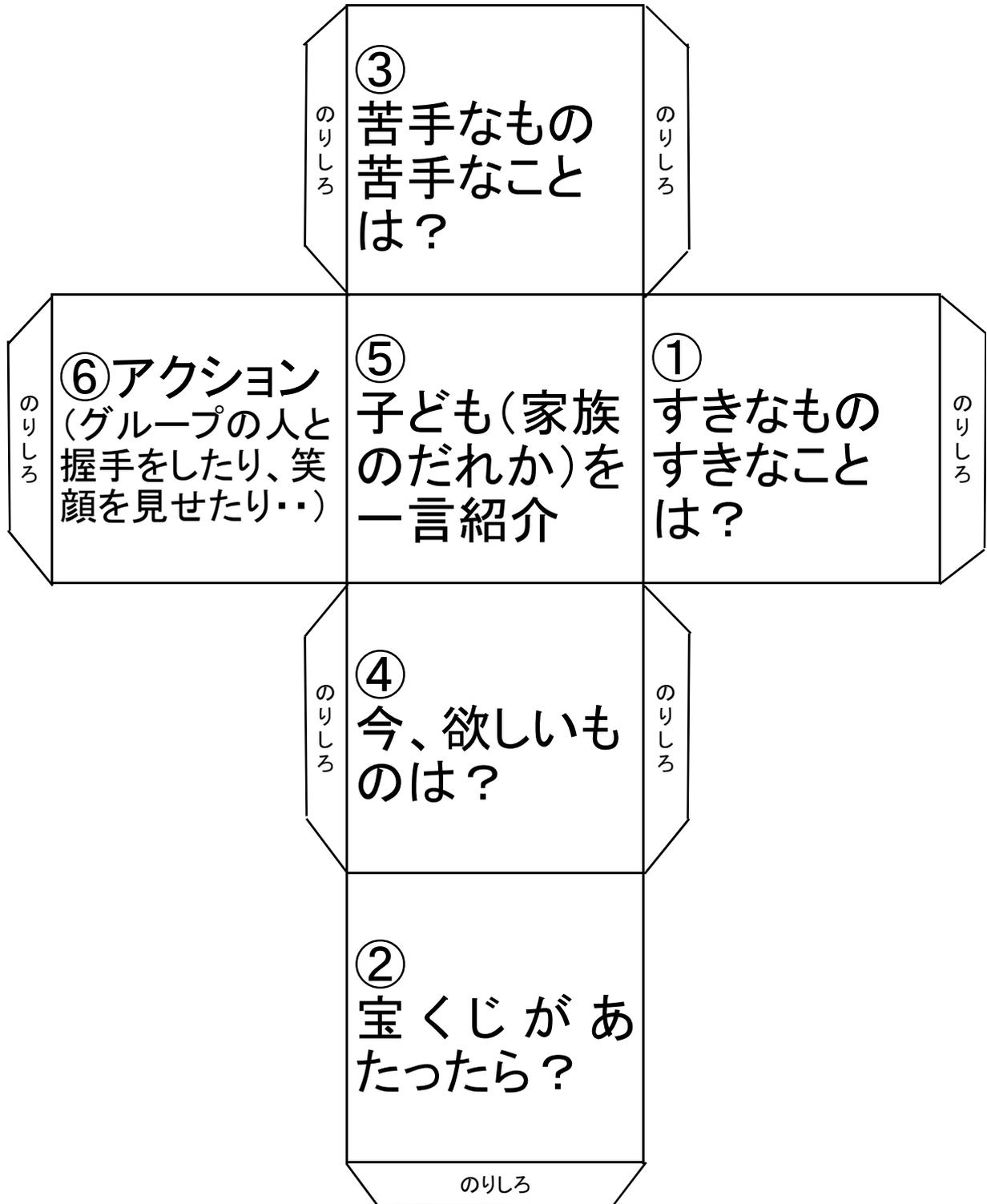
サイコロの目の数	話 題
1	ストレス発散法
2	子どもころの夢
3	今後、やりたいこと
4	これまでの思い出（いつのころでも、どんなことでも・・・）
5	最近、楽しかったこと、嬉しかったこと
6	アクション （グループの人と握手をする、笑顔を見せる、声を出して笑う等）

【Cバージョン：子育てに関する喜びや悩みを共有する、子育て仲間型】

サイコロの目の数	話 題
1	子どものことで嬉しかったこと
2	子育てで、気になること（悩んだこと）
3	子どもに望むこと
4	子どものことで悩んだらどうする？
5	子どもから見て自分はどんな親だろう
6	アクション （グループの人と握手をする、笑顔を見せる、声を出して笑う等）

【Dバージョン：参加者に事前に話したい話題を聞き、テーマを設定するオリジナル型】

【Aバージョン】



※外線を切り、のりしろにのりを付けて組み立てるとサイコロができあがります。

【Bバージョン】

		③ 今後、やりたいことは？	
	⑥アクション (グループの人と握手をしたり、笑顔を見せたり…)	⑤最近、楽しかったことや嬉しかったことは？	① あなたのストレス発散法は？
		④これまでの思い出 (いつのころでも、どんなことでも…)	
		② 子どものころの夢は？	

※実線をはさみで切り組み立てると、サイコロができあがります。

【Cバージョン】

		③ 子どもに望 むことは？	
	⑥アクション (グループの人と 握手をしたり、笑 顔を見せたり…)	⑤ 子どもから 見て自分は どんな親だ ろう？	① 子どものこと で、嬉し かったことは？
		④ 子どものこと で、悩んだら どうする？	
		② 子育てで気 になること (悩んだこと) は？	

※実線をはさみで切り
組み立てると、サイコ
ロができあがります。

【プログラム13:

あなたはどのように考えますか？

～1枚の絵から広がるイメージ～】

☆ねらい：場面絵を見ていろいろな想像をする活動を通して、特定の見方でなく、多様な見方があることに気づき、子育てについても多様な見方を大切にする。

《プログラムの概要》

キーワードの例	多様な見方
時 間	20分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4名がよい）
準備物	○「場面絵」 ・「形合わせ」を行うときは、グループ数の2倍の数（2人に1セット） ・「絵から考える」場合は、グループ数
主な活動	①場面絵を使った形合わせをする。（ジグソーパズル） ②絵を見て考える。 ③考えたことを他のグループの人に紹介する。
気を付けること	○正解、不正解ではなく、参加者の多様な見方を引き出すよう配慮する。
備 考	○書く活動はないので、座談会形式でもできる。 ○講座の時間がとれない時は、完成している場面絵から考える方法がある。その時、「全体提示用の拡大絵」や「各グループ（もしくはペア）に1枚ずつの絵」を用意したほうが効果的である。
スタート編との関連	プログラム③：子どもの気持ちと親のかかわり

【プログラム13 :

あなたはどのように考えますか？～1枚の絵から広がるイメージ～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○多様な見方</p>
17分	<p>全体</p> <p>ペア</p> <p>グループ</p> <p>全体</p>	<p>2. 形合わせをし、1つの場面絵から考える。【11分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①ジグソーパズルをペアで協力して作る。</p> <p>(場面絵を12～16分割したもの)</p> <p>②場面絵(完成したパズルの絵)を見て考えられることや想像できることを思い描く。</p> <p>③考えたり、想像したりしたことをグループで出し合う。</p> </div> <p>(2) 進行役の合図で始める。</p> <p>①ペアで作り考える。〈5分〉</p> <p>②グループで出し合う。〈5分〉</p> <p>3. グループで出た意見を紹介しあう。【6分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ【2分】</p> <p>○ある場面だけで判断して困った経験があるか振り返ってもらい、その体験を紹介してもらおう。</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px solid black; border-style: dashed; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ある場面だけで判断して困った経験はないか。 ・特定の見方や考え方だけではなく、多様な見方や考え方をしようと努力することが必要である。また、子どもが遭遇したその時の状況がつかめるように子どもの話をしっかり聴くことも必要である。 </div>





【プログラム14:

わたしの考え、あなたの考え

～いろいろな考えを聞いてみよう～】

☆ねらい：子どもに起こるであろう問題について4つの立場に分かれて話し合う活動を通して、いろいろな考えや対応の仕方があることを知り、これからの子育てに役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	いろいろな考え
時 間	20分
人 数	何人でもできるが、10人以上が望ましい。
活動形態	全体で動く、やや広めの場所が必要（教室でもよい）
準備物	○コーナーのカード ・「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」のカードを1枚ずつ。 (カードは会場の4隅に掲示する。)
主な活動	①4つのコーナーをする。 ②お互いの考えを紹介しあう。 ③印象に残ったことや感想を紹介する。
気を付けること	○出題内容に気を付ける。 ・生徒指導を考慮した問題づくりや子育てに関係がある問題づくりをする。 ・正誤がはっきりしている問題は避ける。 ○場所の広さや安全面に配慮する。
備 考	○会場での移動が難しい場合は、4～5名のグループを組み、机上で行うこともできる。 (机上に4つのコーナーを作り、出題に合わせて、自分のコマを動かし、理由を紹介し合う。)
スタート編との 関連	プログラム①：わが家の家庭教育

【プログラム14 :

わたしの考え、あなたの考え

～いろいろな考えを聞いてみよう～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○いろいろな考え</p>
17分	全体	<p>2. 4つのコーナーを行う。【14分】</p> <p>(1) 方法を知る。〈1分〉</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①例題を聞き、どう思うか判断する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「自分の考えで動く」ように指示する。 <p>②「そう思う」「少しそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」のどれに自分の考えが近いかを考え、該当するコーナーへ移動する。</p> <p>③同じコーナーにいる人同士で簡単な自己紹介をする。</p> <p>④なぜそこに動いたか、理由を他のコーナーの人に紹介する。</p> <p>⑤再び同じ題で考える。移動したい人は別のコーナーへ行く。意見が変わらない人はそのままでもよい。</p> <p>⑥①～⑤を繰り返す。</p> </div> <p>全体 (2) 進行役の合図で始める。〈13分〉</p> <p>全体 3. 「特に印象に残った意見」や「もっと聞きたい意見」などを紹介する。</p> <p style="text-align: center;">【3分】</p>
2分	全体	<p>4. まとめ【2分】</p> <p>[まとめのポイント]</p> <div style="border: 1px solid black; border-style: dashed; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・物事の考え方には、1つだけでなく多様な考え方がある。 ・自分の考えと異なるものであっても、理由を聞いたり違いを考えたりすることで、自分が気付かなかったことに気付くことができる。 ・いろいろな考え方を知ること、自分の考えの幅が広がり、子育てに対しての自信も高まる。 ・「多様な考え」も大事だが、「是々非々」の考えも大事である。何でも「多様な考え」でOKというわけではない。 </div>

〔4つのコーナー：例題〕

練習：「わたしは、ごはんとパンでは、ごはんの方が好きだ。」

- ①：学校が休みの日は、朝、ゆっくり起きてもよい。
- ②：子どもの友だちは、男女を問わず、どちらもいた方がよい。
- ③：子どもの嫌いな食べ物は、家庭では、無理して食べさせなくてもよい。
- ④：子どものおこづかいは月額制がよい。
- ⑤：子どもが自分から進んでお手伝いをしたら、おこづかいをあげてもよい。
- ⑥：テレビやゲーム、漫画を読む時間など、家庭で必ず決めた方がよい。

※例題は、学年の発達段階や学校の実態に応じて変える。

【問題づくりの留意点】

○学校の基本方針と異なる意見に偏らないように、生徒指導等を考慮した問題づくりをする。

例：携帯電話は保護者の判断で、学校にもってきてもよい。

↓

学校は子どもの携帯電話の持ち込みを基本的に禁止にしている場合で、「よい」に偏ったら、進行役はまとめるのに困る。

ステップ3

「仲間と深める」

～「親の役割」を見つめる～

☆このような機会
活用できます！

- 学年・学級懇談会
- 1日体験入学
- P T A 研修会
- 教育講演会
- 就学時健康診断
- 地区懇談会
- 家庭教育学級
- P T A 役員会

※話したり聞いたりしながら、
「親の役割」を見つめること
ができます。



【プログラム15:よく使う言葉は？ ～言葉の力について考えよう～】

☆ねらい：日ごろの言葉の使い方を振り返る活動を通して、言われたら嬉しい気持ちになる言葉と悲しい気持ちになる言葉があることを確かめ、これからの子育てや生活に役立てる。

《プログラムの概要》

キーワードの例	言葉の力
時 間	20分
人 数	何人でもできる。(1グループは4人程度がよい)
活動形態	個人からグループ
準備物	ワークシート
主な活動	①自分が子どものころに言われた言葉で、印象に残っている言葉を思い出す。 ②例示の言葉を使って、日ごろの自分自身の言葉の使い方を振り返る。 ③チェックして気付いたことや話すときに気を付けていることを話し合う。
気を付けること	○チェックする例示の言葉は、「場合によっては方言で言うこともある」ことを話すと、より身近なものとして考えさせることができる。
備考	○感じ方の違いの例を「がんばれ」で紹介することができる。 (①「がんばれ」と言われて励ましてもらい、嬉しいと感じる場合と②自分自身は頑張っているのに、さらに「がんばれ」と言われプレッシャーを感じる場合がある。) ○実態にあったアンケート(親から言われて嬉しかった言葉と悲しかった言葉アンケート)の結果(言葉)を示すとより身近なものになる。親が思っている言葉と子どもが思っている言葉の差(ギャップ)に触れて考えさせるアレンジもできる。 ○子どもにも同じプログラムを使うことができる。「家族」への言葉の使い方を考えるという、アレンジをすることもできる。
スタート編との関連	プログラム④：上手なほめ方・しかり方

【プログラム15：よく使う言葉は？】

～言葉の力について考えよう～

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○言葉の力</p>
17分	個人	<p>2. 自分が子どものころ言われた言葉で、印象に残っている言葉について振り返る。(数名に聞く)【2分】</p>
	個人	<p>3. ワークシートの例示の言葉を、日ごろ「よく使っている」「時々使っている」「ほとんど使っていない」の3段階でチェックする。【3分】</p>
	グループ	<p>4. チェックして「気付いたこと」や「話すときに気を付けていること」を話し合う。【8分】</p>
	全体	<p>5. グループで話題になったことを紹介する。【4分】</p>
2分	全体	<p>6. まとめ【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には人の気持ちを動かす力があり、同じ言葉でも言われて嬉しい言葉と逆に言われたら悲しい気持ちになる言葉がある。 ・自分の気持ち(伝えたいこと)を伝えるための話し方、相手の気持ち(伝えたいこと)を理解しようとする聞き方をお互いに日ごろから意識していくことが大事である。

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいの
確認

○今日は、「言葉の力」をキーワードに講座を進めていきます。

・キーワードの提示

2. 印象に残った言葉

○みなさんが子どものころ言われた言葉で、印象に残っている言葉、言われて嬉しかった言葉や言われて悲しかった言葉にはどんな言葉がありますか。
(数名の人に発表してもらおう)

・この活動に時間をかけすぎるとあとの活動に余裕がなくなるので、時間配分に気を付ける。

3. 言葉のチェック

(ワークシートの配付)

○これからみなさんに言葉のチェックをしてほしいと思います。

ワークシートに、いくつかの言葉が示されています。この言葉を1, 2, 3の3段階でチェックしてください。

「よく使っている」は「3」を、「時々使っている」は「2」を、そして「ほとんど使っていない」は「1」をつけてください。

また、空欄があります。そこには、みなさんが、日ごろよく使うような言葉を記入してください。自分のイメージでチェックされてください。

チェックが終わったら、「チェックして気付いたこと」や「自分が話すときに気を付けていること」を考えてください。

・チェックすることや考えを書くことに時間をかけすぎないように声をかける。

4. グループの中での紹介

○今、それぞれで考えられたことを、グループの中で紹介してください。まだ、書いている途中の方もいらっしゃるかもしれませんが、書かれた範囲で、思ったことなどを紹介してください。
時間は8分です。みなさんの意見が紹介できるようにしてください。

・グループの人の話を聞くうちに自分の考えがまとまってくるので、「話す」ことを優先させる。

5. 全体紹介

○まだ話している途中だと思いますが、グループで出された意見を紹介してください。
(時間があればグループの意見を多く紹介する)
○どうでしたか？いろいろな意見を聞いて参考になりましたか？

6. まとめ

○私たちが日ごろ使っている言葉には「力」があります。同じ言葉でも、嬉しい気持ちにしたり悲しい気持ちにしたりする力をもっています。みなさんは、自分はそういうつもりではなかったけど、相手が違うように感じてしまったという自分の伝えたい真意が相手に伝わらなかった経験はありませんか。
○相手を嬉しい気持ちにする言葉をたくさん使っていると、言葉を発する自分自身も嬉しい気持ちになれるようです。家庭の中でも、子どもや家族が嬉しい気持ちになる言葉をたくさん使いたいですね。
○自分の気持ち（伝えたいこと）を伝えるための話し方、相手の気持ち（伝えたいこと）を理解しようとする聞き方を、お互いにやっつけていこうとすることが大切です。

・まとめのときに、参加者の経験を紹介し、話と結びつけることもできる。

・「嬉しい気持ちになる言葉を●つ言ってみましょう。」と、参加者に考えさせてもいい。

【よく使う言葉は？～言葉の力について考えよう～】

ワークシート

◇下の表の言葉を、「よく使っている（と思う）」「時々使っている（と思う）」「ほとんど（全く）使っていない（と思う）」の3段階でチェックしてみましょう。

《チェック欄の記入のしかた》

- ・よく使っている（と思う）→3
- ・時々使っている（と思う）→2
- ・ほとんど（全く）使っていない（と思う）→1

※空欄には、自分で考えた言葉を書き込みましょう。

言葉	チェック欄	言葉	チェック欄	言葉	チェック欄
ありがとう		おそい		まだできないの？	
何やってるの？		おめでとう		やめなさい ～するな	
すごいね		よかったね		出て行って	
がんばれ がんばって		～してあげない		〇〇ちゃんは、 ～できたよ	
～しなさい		わからないの？		どうしてできないの？	
できないの？		早く～して		また～したの？	
えらい		うるさい 静かにして		何度言ったらわかるの？	
大丈夫？		がんばったね		よくやったね	
上手だね		できて当たり前よ			
ステキ		～したらダメ			

☆気付いたことを話してみましょう。

☆話すときに気を付けていること

【プログラム16:これって「反抗期」？

～子どもも成長、わたしも成長～】

☆ねらい：子どもの気持ちに寄り添った行動を考える活動を通して、親子関係を見直し、これからの子育てに対しての意欲を高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	親のかかわり方
時 間	25分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～6名がよい）
準備物	ワークシート
主な活動	①「反抗期」のとらえ方を考える。 ②「こんなときどうする？」（ワークシート）を通して、自分の考えを言ったり、他の人の意見を聞いたりする。
気を付けること	○事例の中で、「子どもを怒る、叱る」という意見に集中しそうになった場合は、他の意見も引き出すように気を付ける。 ○「正解」を出すのではなく、多様な考えを聞くことを通して、これからの子育てに役立てていこうとする気持ちを大切にできるように声をかける。
備考	○座談会形式で行うときは、シートへの記入をしやすいするため、バインダーや下敷きなどを用意するとよい。 ○まとめでは、先輩保護者の体験談でまとめてもよい。
スタート編との関連	プログラム③：子どもの気持ちと親のかかわり

【プログラム16：これって「反抗期」？

～子どもも成長、わたしも成長～

時間	形態	講座の流れ
3分	全体	<p>1. ねらいと「反抗期」のとらえ方を確認する。【3分】</p> <p>[キーワード] ○親のかかわり方</p>
20分	個人 グル ープ	<p>2. 「こんなときどうする？」(ワークシート) をする。【15分】</p> <p>①事例をもとに自分の行動を考え、グループの中で考えを紹介する。 〈6分〉</p> <p>②グループで話し合う。〈9分〉</p>
	全体	<p>・「もし自分が子どもだったら、どうしてほしいか」考える。 (参加者の反応を見ながら、「自分が反抗期だったとき、親にどうしてほしかったか、どうだったか」を問いかけてもよい。)</p> <p>・反抗期の子どもに、親としてどのような対応が必要か、グループで考える。</p> <p>・自分のこれまでの経験から思うことなどを紹介する。</p>
2分	全体	<p>3. グループで話したことを紹介する。【5分】</p> <p>4. まとめ【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <p>・子どもの成長とともに、「自分のことは自分で決めたい」という精神的自立の時期が来る。</p> <p>・親は、つい口うるさくなったり心配しすぎたりしがちである。</p> <p>・親も子ども成長していこうとする気持ちをもつことが大事である。</p>

1. ねらいの
確認

- 今日は、「親のかかわり方」というキーワードを
もとに、講座を進めていきたいと思います。
- みなさんは「反抗期」というと、何歳ぐらいでど
ういう感じをイメージしますか。
(参加者の様子を見る)
「反抗期」は幼児期にも大人になってからもある
そうです。一般的に小学校高学年ぐらいから中高
生時期あたりの子どもで、大人の言うことに反発
するような状況をイメージする人たちが多いよう
です。
- 今日の講座では、大人の言うことに反発したり、
あまり話さなくなったりする時期の子どもたちを
イメージして考えたいと思います。

・キーワード
の提示。

2. 「こんなと
きどうする？」
をする

①自分だっ
たら・・・

- ワークシートに「こんなときどうする？」という
事例があります。(事例を読み上げる)
- このような時、あなただったらどうすると思いま
すか？チェック欄にチェックしてください。
(しばらく待つ)
- 「自分だったらどうするか」をグループで意見交
換してください。
(しばらく待つ)
どんな意見が多かったですか。
(いくつかのグループの意見を紹介する)

・「子どもを怒
る、叱る」に
意見が集中し
そうになった
ら、叱った後
の対応なども
取り上げるよ
うに気を付け
る。

②グループ協議

○いろいろな対応が考えられましたね。続けて次の2つのことについて自分の考えをグループで出してほしいと思います。

1つ目は、「あなたがこの子どもだったら、親にどんなことを望むか」ということです。

2つ目は、「反抗期の子どもには、どんな対応が必要だと思うか」ということです。

このことについて、グループで話し合ってください。

ワークシートには、話すためのメモを書いてもいいですし、書かずに話してもいいです。

・自分が反抗期だった時どうだったか等も話せる範囲で話してよいことを知らせる。

③全体紹介

○まだ話している途中だと思いますが、グループで出された意見を紹介してください。

(時間があれば全グループの意見を紹介する)

○どうでしたか？いろいろな意見を聞いて参考になりましたか？

・話題になったことの中から紹介する。

3. まとめ

○子どもの成長とともに、「自分のことは自分で決めたい」という精神的自立の時期が来ます。しかし、親は、つい口うるさくなったり、心配しすぎたりしがちです。親も子も成長していこうとする気持ちをもつことが大事です。

○子育てには、こうしなければいけないという正解はないと思います。今日の講座で聞くことができたいろいろな意見を、自分の子育てのヒントとしてもらえたらいいなと思います。

・反抗期を終えた子どもがいる進行役の場合、自分の体験談や先輩保護者の体験談を聞く活動もよい。

これって「反抗期」？～子どもも成長、わたしも成長～

ワークシート

☆「こんなときどうする？」

※次のような例があります。

最近、うちの子は、自分から学校のことなど話さなくなりました。「楽しかった？」と聞いても「うん」、「どうだった？」と聞いても「うん」の返事です。以前は、いろいろ話してくれていたのに・・・。

ある日、子どもが学校から帰ってきた時、「今日、けんかした。」と言いました。「何があったの？」と聞いても、「もう終わった。いい。」と言ったまま、あとは何も話してくれません。



◆あなたなら、このようなときどうしますか？

下記の項目にチェックしてみましょう。

※（1：多分する 2：多分、場合によってはするだろう 3：多分しない）

項 目	チェック欄
◇子どもに事情（状況）を聞きなおす。	
◇担任の先生に事情を聞く。（学校や担任の先生の自宅に電話する）	
◇子どもを怒る、叱る。 （けんかしたことに対して、話さないことに対して）	
◇何も言わない、聞かない。そっとする。	
◇その他 （ ）	

考えや思いを出し合いましょう！

◆あなたが、この子どもだったら、親にはどんなことを望みますか？

◆「反抗期」の子どもには、どのようなかわり方が必要だと思いますか？

【プログラム17:

子育てで広がる夢・喜び

～子育ての歩みとこれから～】

☆ねらい：子育てマインド曲線を活用し、これからの子育てを想像する活動を通して、親の役割を再認識し、子育てに対しての意欲を高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	歩みと見通し
時 間	30分
人 数	何人でもできる。
活動形態	個人からグループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート
主な活動	①「子育てマインド曲線」を書き、子育てに対する気持ちの高まりや落ち込みを想像する。 ②「どんな子どもに成長してほしいか」「どんな親になりたいか、親としてどんなことをやっていきたいか」を考え、話し合う。 ③印象に残ったことや感想を紹介する。
気を付けること	○「マインド曲線」で、子育てに関しての感情など、書ける範囲で書くことを知らせる。プライベートな事項が多く含まれる可能性があるため、十分配慮する。
備考	○「マインド曲線」の「これまで」の部分は、実態に合わせた取り入れ方をする。 ○「マインド曲線」の書き方を説明する時には、進行役のマインド曲線を用いてもよい。進行役が先に自分のことを話すと参加者も話しやすい。 ○2人以上の子どもがいる場合、学級懇談会であれば当該学級の子ども、PTA研修会であれば1人の子どもに絞って考えるように話す。
スタート編との関連	なし

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいを聞く

○今日は、「歩みと見通し」をキーワードに、講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 「子育てマインド曲線」を書いて考える

○これまでの子育てで、嬉しかったことはどんなことですか？（数名に聞く）
ありがとうございました。みなさん、これまで子育てをしてきて、いろいろな思いがあったと思います。今日は、「これからの10年間」の子育てについて考えてみましょう。
（ワークシートを配付）

・子育てに対する気持ちの移り変わりはだれでもあることを知らせ、安心感を持たせる。

①マインド曲線を書く

○今は、シートの中央の「現在」のところですか。これから10年間の子育てを想像して、どんな気持ちの移り変わりがあると思うか、曲線で表してみてください。
（しばらく待つ）

・進行役が、拡大した用紙を用い、実際に書きながら説明すると、参加者はイメージをとらえやすい。

○曲線が上がったり下がったりしていると思います。子育てに関する心情が高まったときに曲線が上がり、子育てに関する心情が下がったときに曲線も下がります。そして、『●●がある』と思うので曲線が上がると思う」や『▼▼がある』と思うので下がると思う」と、想像した心情を左右する出来事を書いてみましょう。

・書いた方が話しやすい場合は、ワークシートにメモしてもよいことを知らせる。また、書かずに話したほうがいい場合もあり、どちらでもいいことを知らせる。

②子どもの成長、自分のこれからについて考える

○ワークシートの下部分になりますが、2つのことを考えてください。「どんな子どもに成長してほしいか」と「どんな親になりたいか、今後、親として、どんなことをやっていきたいか」です。

③グループの中で出し合う

○今考えたことや子育て曲線で想像したことなどをグループで出し合ってください。時間は7分間です。考えられたことなどできるだけ多く、グループの中で紹介してください。

3. 意見の紹介

○それでは、グループで出た意見や話題を紹介してください。

(いくつかのグループの意見を紹介する)

○他のグループの意見を聞いてどうでしたか。

・できるだけ多くのグループの意見が紹介できるように配慮する。

4. マインド曲線「これまで」について

○今日は、「マインド曲線」の「これから」の部分を考えていただきました。この講座では「これまで」の部分ではできませんでしたが、これまでの子育てを振り返り、自分の子育てに対する心情がどのような移り変わりをしてきたか見つめてください。「これまでの」部分の曲線の書き方は、今日やった方法と同じです。子育てを振り返るいい機会です。ぜひご家庭で記入してみてください。

・進行役が書き方の見本として実際に書くとわかりやすい。

5. まとめ

○今日、みなさんからいろいろな意見を聞くことができました。子育てをしていると、楽しいと思うこと、嬉しいと思うこと、心配することや困ったと思うことなど、いろいろな気持ちになります。子どもの成長とともに、心配事も多くなると思いますが、喜びもたくさんあるのではないのでしょうか。

○親も子どもと同じで、迷いながら親と成長していくものと思います。今後もまずは、周りの人に話すことで、子育てに対する見通しや自信をもち、子育てを楽しんでいただきたいと思います。

・グループの意見の紹介で、まとめにつながる意見があった場合は、そのこととあわせてまとめの話をするとう参加者によりわかりやすい。

「子育てマインド曲線」ワーク

☆これまでの()年		☆これからの(10)年		
↑ 高まり			↑ 高まり	
↑ 子育てに関する心情		★ 現在	↑ 子育てに関する心情	
↓ 落ち込み			↓ 落ち込み	

☆どんな子どもに成長してほしいか？

◇どんな親になりたいか？

◆今後、親として、どんなことをやっていきたいか？

【プログラム18:

わが家で大事にしたいこと】

☆ねらい：「子どもにとって大事と思うもの」のランキングをする活動を通して、毎日の生活を振り返り、家庭で大切にしていることや今後大切にしたいことを再確認し、子育てに対しての意欲を高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	わが家の1か条
時 間	40分
人 数	何人でもできる。
活動形態	個人からグループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート
主な活動	①「あなたは子どもに何と言う？」の活動を通して、日ごろの様子を振り返る。 ②「子どもにとって大事と（私が、わが家で、）思うもの」をランキングを通して考える。 ③印象に残ったことや感想を紹介する。
気を付けること	○ランキングする項目は参考例なので、この項目が大事にしたいことの全てではないことを話す。また、参加者の実態に応じて項目を変更してもよい。 ○ランキングでは、「これがよい」「これは悪い」とならないように、グループの話し合いの仕方を指示する。
備考	○ランキングのところでは、「それぞれの家庭で大事にしていることを3つずつ紹介してもらおう」という方法もできる。（講座の時間や実態等にあわせて活動をアレンジする。） ○まとめでは、「くまもと家庭教育10か条」や各市町村で作成している「家庭教育10か条」等を用いると効果的である。
スタート編との関連	プログラム①：わが家の家庭教育

【プログラム18：わが家で大事にしたいこと】

時間	形態	講座の流れ
2分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【2分】</p> <p>[キーワード] ○わが家の1か条</p>
35分	グループ	<p>2. 「あなたは子どもに何と言う？」(ワークシート)を通して考える。【10分】</p> <p>①自分だったら何と言うか考え、グループの中で紹介する。</p>
	個人	<p>3. 「子どもにとって大事と(私が、わが家で、)思うもの」(ワークシート)を通して考える。【17分】</p> <p>①例題の項目の中から大事だと思うこと3つ選んで図に表す。(5分)</p>
	グループ	<p>②なぜこういう並びにしたか、なぜこれを選んだかをグループの中で出し合う。(12分)</p>
	全体	<p>4. グループで話題になったことを紹介する。【8分】</p>
3分	全体	<p>5. まとめ【3分】</p> <p>[ポイント]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの家庭で大事にしていることには違いがある。 ・子どもが、自分の家庭に「安心感」をもつことが大切である。 ・「衣・食・住」の安らぎは、家庭生活の基盤となると言われている。 <p>○くまもと家庭教育10か条や市町村で作成してある家庭教育10か条等を紹介する。</p>

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいを知る

○今日は、「わが家の1か条」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 「あなたは子どもに何と
言う」をする

(ワークシートを配付)

○ワークシートの「あなたは子どもに何と言う？」をみてください。

ここに「ある日の朝のできごと」のエピソードがあります。(エピソードを読む)

このような時、何と言いますか。グループの中で子どもに言うように言ってみましょう。

(グループでの出し合い)

○ここで、何人かの方に代表で紹介していただきたいと思います。

(2～3名の人に言ってもらう)

ありがとうございました。

・これまでに同じような経験をされた参加者がいた場合は、その時のことを紹介してもらおう。

3. ランキングを通して考える

① 3つ選び、
図に表す

○「子どもにとって大事と(私が、わが家で)思うもの」の表をみてください。

(Aから順に読みあげる。)

このAからJ以外に子どもにとって大事と思うものがある場合は、Kに書いてください。

AからKまでの中から、特に、「子どもにとって大事と思うもの」を3つ選んでください。そして、1番から順になるように図に表してください。ワークシートに例が示してあります。AからE以外の表し方でもいいです。

まず、個人で考えて図に表してください。その後、グループで紹介し合いたいと思います。

(時間をとる)

・「子どもにとって大事と思うもの」は、ワークシートに記してあるもの以外にもあることを話す。

②グループでの紹介

○今、個人で考えられたことを、グループの中で紹介してください。なぜそれを選んだか、なぜそういう並びにしたか等を話してください。

まだ、ワークシートに記入している途中の方もいらっしゃるかもしれませんが、お互いの話を聞いていくうちに自分の考えがまとまることもあります。迷ったことなどもグループの中で話してください。

・記入が終わっていても考えていることを話したり聞いたりする方に時間を多くとるように話す。

3. 全体での紹介

○それでは、グループで出た意見や話題を紹介してください。

(いくつかのグループの意見を紹介する)

・できるだけ多くのグループの意見を紹介できるようにする。

4. まとめ

○今、グループからの発表にもありましたが、それぞれの家庭で大事にしていることには違いがあります。家庭で大事にしていることや親子、家族のコミュニケーションを通して、子どもが自分の家庭に「安心感」を持つことが大切です。「衣、食、住」の安らぎは、家庭生活の基盤とも言われています。

・進行役自身が、わが家で大事にしていることを話してもよい。

【わが家で大事にしたいこと】

ワークシート

1, 「あなたは子どもに何と言う？」

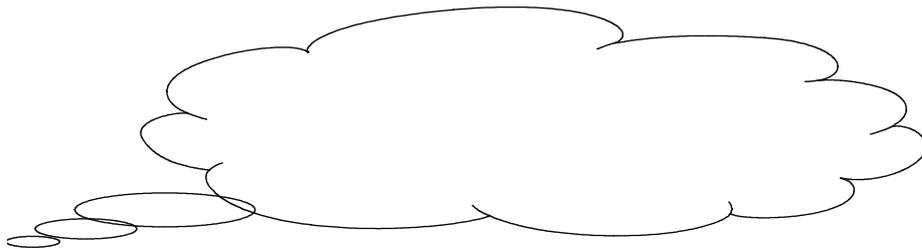
Q: 子どもに話すように言ってみましょう。

《ある日の朝のできごと》

○あなたの子どもは、小学4年生。体育が好きで、なかでも水泳が大好きです。昨夜は、「体がきつい。」と言い、夕食もあまり食べないで早く寝ました。熱はないようですが、今もまだ食欲はいつものようにはありません。子どもは、間近にひかえている水泳大会のリレーの選手決めのことを心配しているようです。子どもは、「大丈夫。水泳するよ。絶対したい。」と言っています。この時、あなたは・・・？



子どもに言うように言ってみましょう。



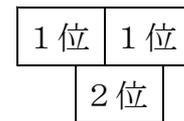
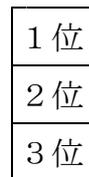
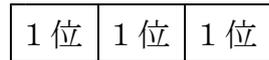
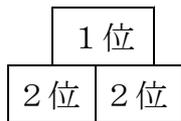
2, 「子どもにとって大事と（私が、わが家で、）思うもの」ランキング

記号	キーワード	内 容
A	リズム	早寝早起き朝ごはん、きちんとした生活リズムが身に付くこと
B	友達	友達と仲良くなること
C	運動	運動ができること、得意なスポーツがあること
D	経験	いろいろなことをたくさん経験すること
E	勉強	勉強ができること、成績がよいこと
F	主張	自分の考えや思ったことがはっきり言えること
G	命	自分の命、動物の命、すべての命を大切にすること
H	聞く	親や先生、家族（大人）の話をよく聞くこと
I	判断	善悪の判断ができ、行動できること
J	心	相手を思う気持ち（優しさ、感謝の心）をもつこと
K		その他（ ）

- ◆A～Kを、あなた（あなたの家）が「子どもにとって大事と思う」順に
3つ選び、キーワードを図にしてみましょう。
「その他」がある場合は、それを加えてください。

《図の表し方》・・・下図のように3つを選び、図にする。（キーワードを書く）

ア：ピラミッド型 イ：よこ型 ウ：たて型 エ：逆三角型



★ア～エ以外の表し方がある場合はその表し方でもいい。

例：アのピラミッド型で表すとき



例：ウのたて型で表すとき



【プログラム19：ニコニコ、パクパク。 わが家の食事！】

☆ねらい：家庭で「食」に関して大事にしていることを再確認する活動を通して、食生活を見直し、家庭における食育の大切さに関する意識を高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	食生活
時 間	40分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート
主な活動	①「食」に関する思い出や経験を出し合う。 ②エピソードをもとに考え、話し合う。 ③簡単レシピや食マナーの紹介をする。 ④印象に残ったことや感想を紹介する。
気を付けること	○「家庭ではだれもが食事を作る」ということを十分配慮する。 ○「食」に関して、さまざまな家庭の実態があることを十分考慮する。
備考	○簡単メニューは、インターネット等で紹介されているレシピ集などを活用してもよい。 ○「とっても簡単！！やってみて、やってみて」の活動は、参加者の実践意欲を高めることが大事なので、意見が少ない場合は、進行役がレシピや食マナーを紹介する等、事前の準備をしておく。 ○「はじめよう！早寝早起き朝ごはん」（熊本県教育委員会）のDVDや「早寝早起き朝ごはんガイド」（「早寝早起き朝ごはん」全国協議会）等を活用した展開もできる。
スタート編との関連	プログラム①：わが家の家庭教育

【プログラム19：ニコニコ、パクパク。わが家の食事！】

時間	形態	講座の流れ
2分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【2分】</p> <p>[キーワード] ○食生活</p>
36分	全体	<p>2. 自分の「食」に関する思いや経験を出し合う。【6分】</p> <p>・好きなメニュー ・苦手な食べ物 ・食に関する思い出 等</p>
	グループ	<p>3. 「ある日のエピソード」(ワークシート)をもとに話し合う。【15分】</p> <p>①グループで、例題をもとに考え、理由も一緒に出し合う。〈10分〉</p> <p>「食生活で大事にしていることやこれから大事にしていきたいこと(わが家の食育1か条)」を紹介する。</p>
	全体	<p>②グループで話題になったことを紹介する。〈5分〉</p>
	グループ	<p>4. 「とっても簡単！！やってみて、やってみて。」(ワークシート)を使って、話したり聞いたりする。【15分】</p> <p>①グループの中で、話したり聞いたりする。</p> <p>・意見が少ない場合は進行役がレシピや食マナーを紹介する。</p>
	全体	<p>②グループで出されたことを紹介する。</p>
2分	全体	<p>5. まとめ 【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <p>・食事は生きていくために欠かせないものである。また、栄養のバランスを考えることや家族の団らんとなるなど、重要な役割がある。</p> <p>・参加者の意見を聞いて、取り入れられることはぜひ今日からやってみてほしい。</p>

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいを知る

○今日は、「食生活」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 「食」に関する思い出

○初めに、自分の好きなメニューや苦手な食べ物、食に関する思い出等をグループで紹介してください。時間は6分です。グループのみんなが話せるようにいろいろな食の話題を端的に話してください。

・1人が長く話すと時間が不足するので気を付けさせる。

3. 話し合う

① エピソードをもとに考える

(ワークシートを配付)

○ワークシートを見てください。そこに「ある日のエピソード」が書いてあります。ここでは、食事を作るのが「お母さん」になっていますが、食事を作るのは家庭によって違い、お父さんが作るころもあれば、夕食はおばあちゃんが作るころもあると思います。ここでは1つの例として考えてください。

このエピソードをもとに、ABCのどのタイプの考えに近いか、また、「家庭で、食に関して大事にしていること」などを紹介してください。

(様子を観察する)

・食事を作る人は家庭によって様々であることを話す。
・ワークシートは参加者の状況に合わせたものに変更するとよい。

② 全体紹介

○ABCのどのタイプが多かったか、また、グループでどんなことが話題になったかなどを紹介してください。

(いくつかのグループを紹介する)

・ABCの中の少数派の意見も取り上げ、その考えなどを紹介する。

4. やってみて ・ ・ の活動

① グループでの 紹介

○ワークシートの裏面を見てください。みなさんのこれまでの経験で、とても簡単に作れるメニューを紹介してほしいと思います。朝食でも、昼食でもいいですし、子どもと一緒に作られるものでもいいです。

また、メニューの紹介に戸惑いを感じられる場合は、食に関するマナーを紹介してください。

(グループ内での紹介)

※参加者の状況によって、グループ内での紹介ではなく、進行役が全体に簡単レシピを紹介したり、参加者の代表の人にレシピやマナーを紹介してもらったりしてもよい。弾力的にする。

・食マナーでは、箸の持ち方を取り上げ、正しい箸の持ち方を話題としてもよい。

・早寝早起き朝ごはんガイドブックを参考にしてもよい。

(朝ごはんを習慣づけるための3ステップ等、参考にできる)

② 全体紹介

○それぞれのグループで紹介し合ったメニューやマナーの中から1つ、全体で紹介してほしいと思います。

(いくつかのグループに発表してもらう)

・子どもの自立に向けて、食に関することで、子ども自身がやっていくことも視野に入れておくといいことも触れる。

5. まとめ

○食事は生きていくために欠かせないものです。

また、食事は、栄養のバランスを考えるばかりでなく食事を通して会話をしたり、食事の時間にコミュニケーションをとったりするなどの重要な役割を果たしています。

○それぞれの家庭で、食に関する考えや状況など、様々だと思いますが、今日話題になったことの中から、「わが家」でできそうなことを1つでも始めてみませんか。

【ニコニコ、パクパク。わが家の食事！】ワークシート

《ある日のエピソード》

○夕食の時間になりました。お母さんが、



・今日のおかずはお魚の煮付けと生野菜のサラダ、具たくさんみそ汁よ。栄養満点、おいしいわよ。

と、ニコニコしながら話しました。それを聞いた子どもたちは、とても不満な顔で、

・朝から「カレーにして」って言ったでしょ。そしたら、お母さん「そうね」って。何でカレーにしなかったの？ぼくカレーがいい……



・確かに、朝、子どもが学校に行く前はそんな話をしていました。しかし、カレーはつい最近だったし、新鮮な魚がお買い得だったし、栄養のバランスを考えて、メニューを変更したのです。◇このときどうする？

タイプ A

〔考え〕



・ごめん。カレーにしてって聞いてたけどお母さんは、栄養とかいろいろ考えて作ったのよ。文句を言わないで、さっさと食べてちょうだい。残さないでよ。

《わが家の食育1か条》

☆食事は、しつけ。栄養メニューや食べ方など親のしつけのもと行うのが1番！

タイプ B



・困ったわ。そう言っていたわね。あっ！！インスタントのカレーは買ってあるから、すぐ作ってあげられるわ。ちょっと待ってて。

☆「食事は楽しく」が何より。好きなものを楽しく食べる、そうすることが1番！

タイプ C



・今日は新鮮なお魚がお買い得だったの。お魚は栄養豊富で、脳の働きを活発にしたり、カルシウムも豊富なのよ。お野菜だってそうよ。カレーはまた今度ね。

☆食事は親子のきずな。メニューも食べ方もコミュニケーションを大事にすることが1番！

◇あなたは、A,B,Cのどのタイプの考えに近いですか？
◇あなたの家庭で、「食に関して大事にしていること」や「これから大事にしたいこと」を紹介しましょう！

タイプ	わが家の食育1か条



とっても簡単！！やってみて、やってみて。



☆朝食編 ☆昼食編 ☆子どもと一緒に作りたい編 ☆食マナー編

○どれか1つ選んで紹介してください。

**オススメ
朝食メニューレシピ**

**昼食にオススメの
メニューレシピ**

**子どもと一緒に作りたい
メニューレシピ**

わが家の食マナー

【プログラム20：伝え方のひと工夫 ～みんなの気持ちを考えて～】

☆ねらい：自己主張と受容のバランスを考えた対応の仕方を経験する活動を通して、保護者同士、自分と家族など互いの関係をよりよくしようとする意欲をもつ。

《プログラムの概要》

キーワードの例	コミュニケーション
時 間	45分
人 数	何人でもできる。
活動形態	全体からグループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート
主な活動	①「3つのタイプで考えてみよう」を通して考える。 ②「ケーススタディ：あなたなら？」を通して考える。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○伝えたいことを表現することが得意な参加者と苦手な参加者がいることを配慮する。 ○相手の人権を尊重した話し方とあわせて相手を尊重した聞き方（相手を見る、うなづく、あいづち等）も大事であることに気を付ける。
備考	○「3つのタイプで考えてみよう」では、「進行役対参加者」で役割演技を行うが、ペアで役割演技を取り入れることもできる。 ○「ケーススタディ：あなたなら？」と同じような経験があれば紹介する活動を入れることもできる。
スタート編との 関連	プログラム④：上手なほめ方・しかり方 ～伝え方のひと工夫～

【プログラム20：伝え方のひと工夫～みんなの気持ちを考えて～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	<p>1. ねらいを確認する。【1分】</p> <p>[キーワード] ○コミュニケーション</p>
42分	<p>全体</p> <p>個人</p> <p>グループ</p> <p>全体</p>	<p>2. 「3つのタイプで考えてみよう！」(ワークシート)を通して、相手と接するときの対応の仕方には、3つのタイプがあることを知る。【10分】</p> <p>○3つのタイプの感じ方の違いを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「進行役対参加者」で役割演技をする。 ・言われた時の感じ方を考える。 <p>3. 「ケーススタディ：あなたなら？」(ワークシート)を通して考える。【25分】</p> <p>①例題A、Bを通して、自分だったらどうするか考える。(5分)</p> <p>②考えたことを、グループの中で出し合う。(20分)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシートへの記入はできる範囲でよいことを伝える。 <p>4. グループで出されたことや感想を紹介する。【7分】</p>
2分	全体	<p>5. まとめ【2分】</p> <p>[ポイント]</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・対応の仕方は大きく3つのタイプに分けられる。 ・相手の人権を尊重し、自分の気持ちを適切に伝えることが大切である。 ・日ごろから、言葉の使い方、表現の仕方を意識することが大切である。 </div>

1. ねらいの
確認

○今日は、「コミュニケーション」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。みなさんは、自分が伝えたいことは、きちんと相手に伝えていますか。また、相手が何かを伝えたときに、どんなことに気を付けて、伝えてきたことを受け入れようとしていますか。今日は、このことを一緒に考えていきましょう。

・キーワードの提示。

2. 3つのタイプで考えてみよう

○ワークシートを見てください。
自分の考えや気持ちの伝え方、主張の仕方には大きく3つのタイプがあると言われています。
「タイプあ」は・・・・。
「タイプい」は・・・・。
「タイプう」は・・・・です。 } 「タイプ」の説明部分を読む
私が「子どもA」の役をします。みなさんは「子どもB」になってください。「子どもA」「子どもB」の順にセリフを言います。
「子どもBの②」のとき、どんな気持ちになるか、言い方のタイプが違うと言われた方はどんな気持ちかということを考えてください。
○それではやってみましょう。
(シナリオにそって、進行役対参加者の役割演技をする)
○みなさんどうでしたか。感じたことを紹介してください。
(数名の人に紹介してもらう)
○そうですね。「タイプあ、い、う」のように言い方が違うと受け手の感じ方に違いがありますね。みなさんは、どの伝え方が、お互いの気持ちがいいと思いますか。
また、日ごろ、どの伝え方が多いでしょうか。これをきっかけに、考えてみてはどうでしょうか。

・参加者には「子どもB」のせりふを言う練習の時間をとってよい。

・役割演技をするときは、進行役も参加者も子どもになりきることが大事。

3. ケーススタ ディ：あなた なら？

○次に「ケーススタディ：あなたなら？」を通して考えてみましょう。

例題が2つあります。この2つの例題を個人で考え、その後、グループの中で考えたことを紹介してください。進行する人を決め、ある程度自分の考えがまとまったかなと思ったら声をかけて、グループでの話し合いを始めてください。何かわからないことがあるときは、尋ねてください。それでは、始めてください。

(グループを見て回り、ある程度時間が過ぎても話し合いが始まらないようであれば、書くことより話すことの方を優先させるように声をかける)

・目安の時間

①1人で考える：5分

②グループでの話し合い：20分

③全体への紹介：10分

4. 意見の紹介

○グループで話題になったことや例題Bでの「この家族にとって、お互いの気持ちを尊重する」方法を紹介してください。

(いくつかのグループの意見を紹介する)

・例題Bでの

「お互いの気持ちを尊重する方法」は、全部のグループに紹介してもらってもよい。グループごとに用紙等を書き、それを全体に紹介してもよい。

5. まとめ

○他のグループの意見を聞いてどうでしたか。

自分の考えがあっても伝えなければ気持ちや考えは相手に伝わりません。また、自分の気持ちを伝えるときには、相手のこと、相手の人権を尊重することが大切です。

○今日、考えたからすぐ実行できるというものではありません。日ごろから、言葉の使い方、表現の仕方を意識しておくことが大切です。

【3つのタイプで考えてみよう！】

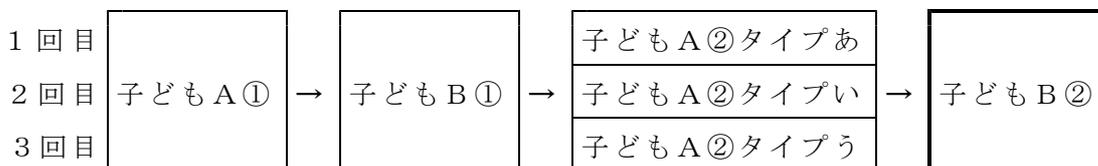
【タイプあ】：相手の気持ちより自分の考えや思いを主張する、攻撃的な対応

【タイプい】：相手のことを気にして、自分の考えや思いを伝えない、受け身的な対応

【タイプう】：相手のことも考え、同時に自分の考えや思いも伝える、主体的な対応

◆子どもB②の時、どんな気持ちになるでしょう。

3つのタイプで言われた時の感じ方の違いを考えてみましょう。



・子どもA① 進行役 やったー。読みたかった本がやっと借りられる。
嬉しいな。早く帰って読みたいな。
(子どもAの気持ちや状況を知らない子どもBが、偶然子どもAに会った)

・子どもB① 参加者 あっ。その本。
読みたかったんだ。貸して！貸して！

・子どもA② (タイプあ) 進行役 ・何で？やっと今日借りたばかりなのに。まだ全然読んでないんだよ。

(タイプい) 進行役 ・(心の中で、「やっと借りたのに……。まだ全然読んでないのに……。」) う～ん……。いいよ……

(タイプう) 進行役 ・私もようやく借りられたんだ。今、借りたばかりで全然読んでないから、ちょっと待ってて。
読んだらすぐ知らせるから。

・子どもB② ? ? ? ?

《ケーススタディ：あなたなら？》

例題：A

○ 子どもが仲良しの友達を家に連れてきました。今は、楽しくカード遊びをしています。しかし、昨日、姉とカード遊びをしているときに、「好きなカード貸したんだ。『返して』って言うてるけど、なかなか返してくれない。そのカード、手に入れにくいし、強いし、気に入っているんだけど・・・。どうしよう？」と、話しているのが聞こえてきました。

気にはなったのですが、そのままにしていました。今、子どもとその仲良しの友達は、楽しそうにカードゲームをしています。

このとき、あなたは親としてどうしますか？

①黙ってこのままの状態を続ける（気付かないふりをする）

②自分の子どもを呼んで、言う

↓どんな言い方で、何と言う？

③子どもの友達に言う

↓どんな言い方で、何と言う？

④その他

↓具体的に

※わたしの考えに1番近いのは、（ ）です。（上記①～④を記入）

なぜそうするのかというと、

だからです。

例題B

○ 子どもが、「おとうさん、今度の土曜日、時間ある？」と聞いてきました。「おとうさんは仕事だよ。」と答え、そのあと「どうした？」と聞き返しました。「転校したリカちゃんから『遊びにおいでよ。』って電話があったの。だから乗せて行ってほしかったんだ。」と言いました。「おかあさんは？」と聞くと、「おにいちゃんの部活の試合に行くんだって」と言いました。「おにいちゃんの試合にはこの前も行ったのに・・・」と、小さな声でつぶやきました。

さて、このときあなたは親としてどうしますか？

○あなたが「おとうさん」の立場だったら、何と言いますか？



○あなたが「おかあさん」の立場だったら、何と言いますか？



☆この家族にとって、お互いの気持ちを尊重するにはどんな方法があるでしょう。

MEMO

【プログラム21:だれにだって悩みはある ～一人で悩まず、話してみよう～】

☆ねらい：互いに悩みに答える活動を通して、子育てに対する自分の考えや思いを整理し、子育てに対して前向きな気持ちを高める。

《プログラムの概要》

キーワードの例	悩みの共有
時 間	4 5 分
人 数	何人でもできる。(ただし、少なくとも9～12人は必要)
活動形態	グループ (1 グループは4名がよい、3名でも可)
準備物	○悩みリスト (人数分) ○ストップウォッチ ○机上札 (A B C D) →それぞれグループ数
主な活動	①「悩みリスト」をもとに、相談者になったりアドバイザーになったりする。 ②アドバイス受けたことをもとに話し合う。 ③グループの意見や感想を紹介する。
気を付けること	○「悩みリスト」は、事前にアンケートを行うなど実態に合ったものを用いるとより効果的である。しかし、それが個人を特定できる悩みにならないようにする。
備考	○話の聞き方については、「スタート編」プログラムとの関連を図るとよい。
スタート編との関連	プログラム②：一人じゃないよ、仲間がいるよ プログラム⑥：上手な話の聞き方 ～聞き上手は子育て上手～

【プログラム21：だれにだって悩みはある
～一人で悩まず、話してみよう～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○悩みの共有
42分	全体	2. 「悩みリスト」をもとに相談者になったりアドバイザーになったりする。 【25分】 (1) 方法を知る。〈3分〉 ①進行役が相談者Aを紹介する。 ②Aの相談に対して、B, C, Dは一人ずつ悩み解決に向けたアドバイスを1分程度話す。 (相談者1分+1分×3人+予備) = 5分 ③進行役が相談者Bを紹介する。 ④Bの相談に対して、C, D, Aは一人ずつ悩み解決に向けたアドバイスを1分程度話す。 (相談者1分+1分×3人+予備) = 5分 ⑤このように、C, DもA, Bと同じように行う。
	全体	(2) 聞くときの配慮事項を確認する。〈2分〉 ・相手を見てうなずきながら聞くなど、聞き方を工夫する。
	グループ	(3) グループ内でやってみる。〈20分〉
		3. グループ替えを行う。(同じ机上札の人で集まる。)【1分】
		4. アドバイスされたことを紹介しあう。【10分】
	全体	5. グループの代表が、特に印象に残った意見を紹介する。【6分】
2分	全体	6. まとめ【2分】 [ポイント] ・親は、子どもについていろいろな悩みや心配事があり、悩みをもっているのは決して自分だけではない。 ・だれかに相談すると気持ちが軽くなり、解決に向かうヒントが見つかるかもしれない。まずは、一人で悩まず、「話そう」「気持ちを伝えよう」ということが第一歩である。

〔 活動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備考 〕

1. ねらいの確認

○今日は、「悩みの共有」をキーワードに講座を進めていきたいと思います。

・キーワードの提示。

2. 活動する

(1) 方法を知る

(机上札と悩みリストの配付)

○まず、グループの中で、だれが「相談者A」の役になるか、だれが「相談者B」の役になるか・・・(C、Dも)を決めます。

○次に、進め方を説明します。進行役が相談者を紹介します。

Aの役の人は、悩みリストに書かれているAの悩みをグループの人に相談してください。相談を受けたB、C、Dの役の人は、Aさんの悩みに対して感じたことや解決策など、1人1分程度話してください。

始めはBさんからです。私が「交代です」と言ったら、Cさんが話します。最後にDさんです。

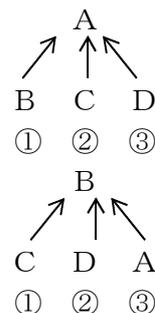
そこまでいったら、次はBさんが悩みを相談します。その悩みに対して、Cさん、Dさん、Aさんがアドバイスします。これを繰り返します。

全員が終わったら、Aさんグループ、Bさんグループ・・・とグループ替えをし、どんなことをアドバイスしてもらったかを紹介します。

どうですか。やり方は、わかりましたか。

私(進行役)が時間を計り、進行していきますので、各グループともあわせてください。

・方法を図に表して示すとわかりやすい。



(2) 聞き方の確認

○ここで、聞くときのことを確認したいと思います。今、説明したように、「悩み」に対してアドバイスするという活動を交代しながらやっていきます。相手の話を聞くときに、大事なことは何だと思えますか。

(しばらく待つ)

そうですね。

話し手を見る、うなずく、あいづちをうつ等、話し手が安心できる聞き方があります。ここでも、そのことを意識してほしいと思います。

・聞くときの留意点を提示すると、参加者は意識しやすい。

(3) 活動する

○それでは、悩みリストを見てください。自分の役のところを読み、その役になってください。そして、自分なりの考えをもってください。また、自分の役以外のところで、何とアドバイスするか考えてください。後で、実際やりながら考えてもいいです。

(しばらく待つ)

・アドバイスする時、だれかの批判にならないようにすることを確認する。

- それではやってみましょう。
 - 相談者Aさん、どんな悩みがありますか。悩みを話してください。(Aさん役が話す)
 - 相談者Aさんに対してBさん、考えたことなどアドバイスをしてください。(1分計る)
次にCさん、アドバイスしてください。(1分計る)
最後にDさん、アドバイスしてください。(1分計る)
 - Aさんは、みなさんにお礼の言葉をお願いします。
 - 相談者Bさん、あなたにはどんな悩みがありますか。悩みを話してください。(Bさん役が話す)
 - 相談者Bさんに対してCさん、考えたことなどアドバイスをしてください。(1分計る)
次に、Dさん、アドバイスしてください。(1分計る)
最後にAさん、アドバイスしてください。(1分計る)
- ※同じように相談者Cさん、相談者Dさんも進める。**

・アドバイスする時間は1分間とするが、短くなってもよいことを伝え、安心感をもたせる。

3. グループ替え

- 今からグループ替えをします。
Aさん役の人は◆◆に、Bさん役の人は★★に、Cさん役の人は・・・、Dさん役の人は・・・に集まってください。(机上札を持って)
(移動)

・机上札をもって移動すると、参加者が集まりやすい。

4. グループの話し合い

- 前のグループの時、自分の相談に対して、どんなアドバイスもらったかを紹介してください。また、それぞれの話を聞いて感じたことや思った事など話し合ってください。
(しばらく待つ)

・特に印象に残ったことなどを紹介してもよい。

5. 意見の紹介

- グループの意見の紹介にうつります。
グループの代表の人は、特に印象に残ったアドバイスやグループで話題になったことなどを、他のグループの人たちに紹介してください。
(A~Dグループの代表が1人ずつ紹介する)

・それぞれの発表の前に、もう一度どんな相談だったか、悩みリストを進行役が読むと、発表とつながりやすく効果的である。

6. まとめ

- 他のグループの意見を聞いてどうでしたか。
同じ悩みに対していろいろな解決の方法があることが今日の講座で感じられたと思います。
- 悩みや心配事はだれにでもあり、決して自分だけではありません。だれかに相談すると、気持ちが軽くなり、解決に向かうヒントが見つかるかもしれません。一人で悩まず、「話そう」「気持ちを伝えよう」と思うことが第一歩です。

【だれにだって悩みはある～一人で悩まず、話してみよう～】

◇悩みリスト

(※実際使うときは、学校・学級等の実態に合わせた悩み等に変更するとよい)

《相談者A》40代・男（小5 男）

○息子の友だちの間でゲームがとても流行っている。ゲームができないと仲間に入れてもらえないらしく、「買ってほしい」と言ってきた。ゲームは、家では「購入しない」と言ってきたが、子どもの友達関係を考えるとどうしたらいいだろうかと悩んでいる。

《相談者B》40代・女（小4 女）

○中高生の兄たちと生活リズムが同じになり、夜、寝るのが遅くなっている。一人だけでは寝ることができず、自分も子どもと一緒にの時間には寝られず、どうしたらいいだろうかと悩んでいる。

《相談者C》30代・女（小4 男）

○祖父母の対応に悩んでいる。息子は、おやつを食べ過ぎと好き嫌いに原因があり、肥満傾向にある。バランスのとれた食生活をさせたいが、仕事がいそがしく自分に余裕がないため、食事等も祖父母に任せることが多い。また、祖母が勝手に子どもの持ち物を片付けてしまうこともある。親としては、子ども自身に片付けさせたいと思いほとんど手を出さないが、いつもあるところがないことがあるので子どもが戸惑うことがある。祖父母にはお世話になっているので、どのようにしたらいいか悩んでいる。

《相談者D》40代・男（小6 女）

○小6の娘の口調がとても気になる。最近になってとても冷めた言い方をするようになった。注意してもその場でから返事をし上の空という感じがする。母親が言うことに対しても同じで、時には口答えをする。成長過程の1つの反応だと思うが、どのような対応をすればいいのか悩んでいる。

MEMO

【プログラム22:

地域の子どもは地域みんなで育てよう

～ステキな「ひと・もの・こと」～】

☆ねらい：地域でかかわりのある人、大切なものや行事などを見つめる活動を通して、保護者自身が地域を知り、人を含めた地域のよさに気づき、地域の力を借りて子育てをする意識をもつ。

《プログラムの概要》

キーワードの例	地域のよさ、ひと・もの・こと
時 間	45分
人 数	何人でもできる。
活動形態	グループ（1グループは4～5名がよい）
準備物	○ワークシート（大）・・・グループ数 ○サインペン・・・グループに1～2本 ○ワークシート（個人用）・・・人数分
主な活動	①グループで相談しながら「地域のよさ」を考える。 ②グループで出し合ったものを紹介し合う。 ③気付いたことや感想を紹介する。
気を付けること	○講座に、地域の民生委員や区長さん方に参加してもらったり、「地域のよさ」（ひと・もの・こと）を把握する支援をお願いすると効果的である。
備考	○子どもたちが、総合的な学習の時間や生活科で「地域を知る」学習を行った後に、その様子を聞くことで子どもの考えや思いを知ることができ、親の学びとなる。 ○参加者の実態に合わせて、「出し合う」時間より「紹介し合う」時間を長くするなど、1つ1つの活動の時間を弾力的に扱う。
スタート編との 関連	なし

【プログラム22：地域の子どもは地域みんなで育てよう
～ステキな「ひと・もの・こと」～】

時間	形態	講座の流れ
2分	全体	1. ねらいを確認する。【2分】 [キーワード] ○地域のよさ、ひと・もの・こと
40分	全体	2. 「地域のよさ」を考える。【18分】 (1) 活動のやり方を知る。〈5分〉 ○子どもがお世話になっている人、自分がお世話になっている人、地域で頑張っている人の例を紹介する。 例：「子ども110番」のシール、交通指導員や民生委員さんの写真、どんどや、公民館等の写真や実物を見せる。
	グループ	(2) グループで相談しながら、応用紙に次のことがらを書き込む。〈13分〉 ○子どもが地域でお世話になっている人やかかわりのある人（交通指導員さんなど） ○自分や家族とかかわりのある人（相談できる人やお世話になっている人など） ○地域で頑張っている人（老人会や婦人会等で活動している人など） ○地域にある大切にしたいもの（場所）や昔からある行事等
	全体	3. 自分たちの出し合ったものを紹介し合う。【15分】 紹介の仕方は、実態に応じて工夫する。 例：①全体の前でグループごとに発表する。 ②グループ内で発表役と見る役に分かれ、それを交代して行う。
	全体	4. 3の活動を通して気付いたことや感想を紹介する。【7分】
3分	全体	5. まとめ 【3分】 ※進行役ではなく、地域コーディネーターや民生委員さんの話でまとめる方法もある。 [ポイント] ・地域には、子どもや私たち大人を支えてくれる方がいる。 ・地域のために進んで働いている人やこの地域にしかない場所や残していきたい行事などもある。 ・私たちが、地域を見つめ、良さを知り、地域全体で子どもたちを見守っていこう。

〔 活 動 〕

〔 基本的な説明・問いかけ例 〕

〔 備 考 〕

1. ねらいを知る

○今日は、「地域のよさ、ひと・もの・こと」をキーワードに講座を進めていきたいと思ひます。

・キーワードの提示。

2. 「地域のよさ」を考える

① 方法を知る

○（交通指導員さんや民生委員さん方の写真を見せながら）この方は、だれか知っていますか？
（参加者の声を聞いて）そうです。子ども達の登下校中に交通指導して下さる指導員の●●さんです。
（どんどやの写真を見せながら）これは何かわかりますか。
（参加者の声を聞いて）そうです。毎年行われるどんどやの写真です。みなさんは参加されたことがありますか。
もう1つ、（こども110番のシールを見せながら）これは何か知っていますか。
（参加者の声を聞いて）そうです。こども110番の家に貼ってある目印のシールです。
みなさんは、子どもの通学路のどこにこのシールがあるかわかりますか。
今日は、子どもや自分がお世話になっている人やかわりのある人、地域で頑張っている人、地域にある大切にしたいものや行事などについて、みなさんで考えてみたいと思ひます。

・事前に写真や具体物の用意をする。
例：
◇交通指導員や民生委員さんの写真
◇こども110番の家のシール
◇どんどや、地域の公園の写真等
※ひと、もの、こと、それぞれに例があると、参加者は考えやすい。

② グループ活動

（グループ用ワークシート、サインペンの配付）
○グループの人たちで、知っているもの、知っている人など、いろいろな情報を出し合いながら書き込んでいってください。自分は直接知らなくとも、「～なことを聞いたことがある」ということも、グループの中で出してください。
（しばらく時間をとる）

・グループ用ワークシートは広めの方が見やすく、書き込みやすいのでよい。

3. 紹介する (グループ)

○今から、グループごとに考えたことの紹介にうつります。方法を説明します。
それぞれのグループの人が半分半分に分かれます。グループの半分は、先に他のグループを見て、疑問点があったら質問します。残りの半分は、自分のグループにそのままいて、見に来た人に質問された時に答えます。
私が、「交代」と言ったら、見る人とグループに残る人が交代します。
紹介の仕方はわかりましたか。
グループで先に見る方を決めてください。

・グループごとに、全体に発表(紹介)する方法もある。

○それではやってみましょう。先に見る人たちは立ってください。しっかり見られて、質問や気付きを言ってください。
(▼分計る)
○交代しましょう。どうでしたか。
自分たちのグループで気付かなかったことに気付いているグループや同じ事に気付いているグループなどあると思います。今から他のグループを見る人たちも、よく見られて、質問や感想を言ってください。

・見るだけではなく、できるだけ質問や感想を伝えるようにした方が盛り上がる。

4. 紹介する (全体)

○今、全部のグループを交代で見て回ったと思います。どうでしたか。他のグループのまとめを見て気付いたことや自分たちのグループで活動した感想などを紹介してください。
(個人用ワークシートに記入してもよい)
(数名に発表してもらおう)

・個人ワークシートはグループ紹介の前に配付し、見て回ったときに気付きを記入するにしてもよい。「書く」負担感を与えないように、書いてもよいし書かずに話してもよいことを伝える。

5. まとめ

○私たちの住んでいる地域には、子どもや私たち大人を支えている方々や地域のために進んで働いている方々があります。また、この地域にしかない場所や残していきたい行事などもあります。
○毎日生活しているこの地域ですが、知っているようで知らないこともあります。私たち大人が地域を見つめ、地域のよさを知りましょう。そして、地域全体で子どもたちを見守り、地域の力を借りながら子育てする意識をもちましょう。

【地域の子どもは地域みんなで育てよう～ステキな「ひと・もの・こと」～】

【グループ用】

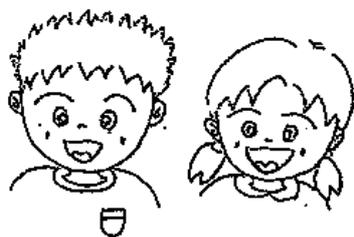
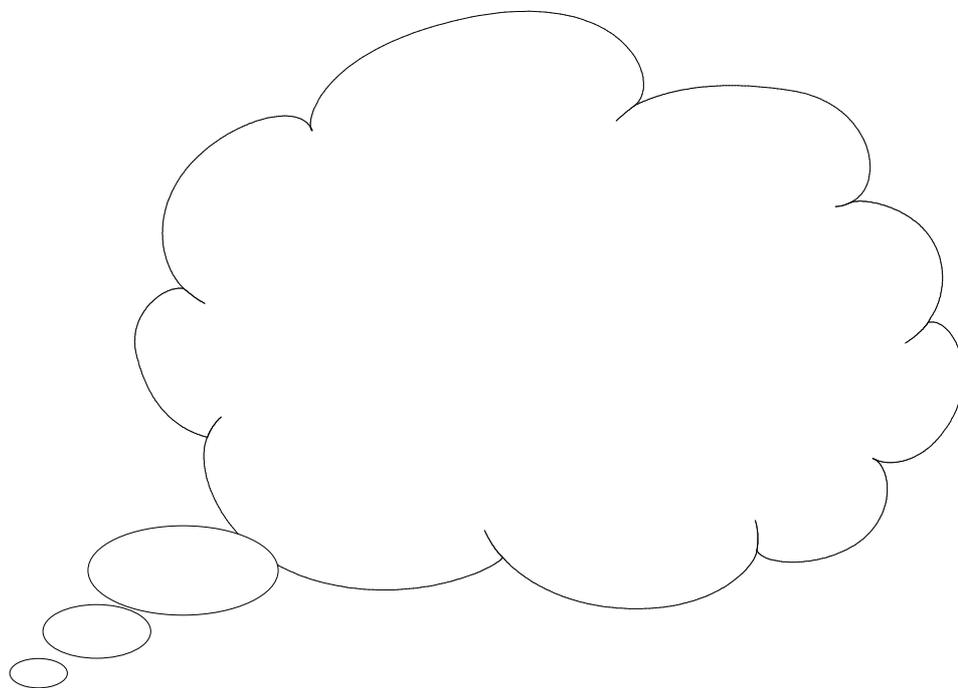
《子ども・自分・家族がお世話になっている人》
《地域で頑張っている人》

《大切にしたいもの（場所）・伝えたい行事》

【地域の子どもは地域みんなで育てよう～ステキな「ひと・もの・こと」～】

【個人ワークシート】

◇気付いたこと



☆MEMO

資料編



も く じ

- 【導入】で活用するアイスブレイク ・ ・ P 1 ～ P 5
- いじめ対応の手引きより
「子どものサイン発見チェックリスト」(家庭用) ・ ・ P 6
- 熊本県不登校対策資料「ともに手をたずさえて」より
不登校の未然防止～家庭での取組 ・ ・ P 7 ～ P 10
- 一人で考えこまないで(相談機関の紹介)
 - ・ すこやか子育て電話相談 ・ ・ P 11
 - ・ その他の電話相談先 ・ ・ P 12 ～ P 14
- くまもと家庭教育10か条 ・ ・ P 15
- 子ども輝き条例のポイント ・ ・ P 16
- 関連ホームページや資料の紹介 ・ ・ P 17



【導入】で活用するアイスブレイク

☆自己紹介でブレイク (自己紹介の工夫)

《多くの人に紹介を！》・・・初対面型

- 移動しながら行う。
- 初めに時間を（3分間程度）設定し、その時間の中でより多くの人と自己紹介しあう。
- 名前と所属、名前と好きなもの等、名前以外に1つ自分の紹介をする。最後は、「よろしくお願いします。」で終わる。
- ※限られた時間で何人の方と自己紹介できたか振り返る。
- ※自分から進んで話しかけるのが得意な人とそうでない人がいることを押さえる。
- ※設定した時間の経過を適宜、参加者に伝えると効果的である。

《今の気持ちは・・・！》・・・初対面型

- 移動しながら行う。
- 自分の名前と今の気持ちを話す。最後は、「よろしくお願いします。」で終わる。
例：私の名前は★★です。今、とてもドキドキしています。よろしくお願ひします。
私の名前は◇◇です。今、何だか嬉しい気持ちです。よろしくお願ひします。
- ※今の気持ちを話すことで、緊張しているのは自分だけでないことがわかり安心できる。
- ※参加者がどんな気持ちで講座に参加しているか、お互いが理解できたか振り返る。
- ※できるだけ多くの人と紹介しあうように、事前に話しておく。

《新たな自己紹介！》・・・顔見知り型

- 移動しながら行う。
- 初めに時間を（3分間程度）設定し、その時間の中でより多くの人と自己紹介しあう。
- 自分の名前とあと1つ、今まであまり人に話していなかったような事を話す。最後は、「よろしくお願いします。」で終わる。
例：・私の名前は◆◆です。私は、甘いもののなかでもパフェが好きです。よろしくお願いします。
・私の名前は★★です。実は、ものまねが得意ですよ。よろしくお願いします。
・私の名前は▼▲です。小さい頃、とてもいたずらっ子だったんですよ。よろしくお願いします。
- 顔見知りだったけど、新たな一面がわかったどうか振り返る。
- ※話せる範囲で話すこと、難しく考えないで気軽な気持ちで話すといいことを伝える。
- ※できるだけ多くの人と紹介しあえるように、事前に話しておく。

《握手で紹介》

・・・（初対面型、顔見知り型）どちらにも使えます。

- 移動しながら行う。
- 初めに時間を（3分間程度）設定し、その時間の中でより多くの人と自己紹介しあう。
- 自分の名前と「よろしくお願いします。」を言う。その時、相手をしっかり見て、笑顔で握手する。
- ※限られた時間で何人の方と自己紹介ができたか振り返る。
- ※握手はどんな事に効果的だったか振り返る。
握手をした時としなかったときの印象、感じ方に違いはあるかを考えてもらうとよい。
- ※設定した時間の経過を適宜、参加者に伝えると効果的である。

《Q & Aで紹介》

・・・(初対面型、顔見知り型) どちらにも使えます。

- 移動しながら行う。
 - 初めに時間を（3分間程度）設定し、その時間の中でより多くの人と自己紹介しあう。
 - 話すこと
 - ①自分の名前
 - ②相手に聞きたいこと、(ただし、聞く前に自分がそのことについて話すこと。)
例：「私は、ケーキが食べたいけどあなたはどうですか？」
 - ③相手からの受け答え
- ※限られた時間で何人の方と自己紹介ができたかを振り返る。
※互いに質問し合ってどうだったか、その効果について振り返る。
感想を数名に聞き、感想を紹介してもよい。
※設定した時間の経過を適宜、参加者に伝えると効果的である。

その他のアイデア

☆事前にカード式の用紙を参加者に渡し（10枚程度）、それを自己紹介で活用しながら交換する。

☆アイスブレイクの時間、参加者の構成、講座の開催回数等に応じて、いろいろな自己紹介を組み合わせると、より効果的である。

☆5～6人のグループで円を作り、全員を紹介する。
例：「私は〇〇です。私のお隣は◇◇さんで、その隣は△△さんです。」と、いうふうに一回り紹介する。グループの人数が少ない場合は、名前のほか、あと一言紹介を付け加える。最後に、各グループから全体に紹介してもらう。

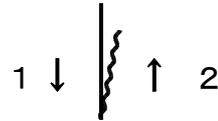
【導入】で活用するアイスブレイク

☆とっても簡単！一気にブレイク (進行役対全体)

《こっちのリズム、あっちのリズム①》

〔2拍子3拍子〕

☆座ってできる。



①右手で2拍子をとる。

進行役は「1, 2」「1, 2」とリズムを唱える。

全員で練習する。

②左手で3拍子をとる。

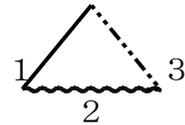
進行役は「1, 2, 3」「1, 2, 3」とリズムを唱える。

全員で練習する。

③右手と左手を同時にする。

はじめはゆっくり行い、できるようになったら速くしていく。

④右手が3拍子、左手が2拍子にする。



《こっちのリズム、あっちのリズム②》

〔3拍子4拍子〕

☆座ってできる。

①右手で3拍子をとる。

進行役は「1, 2, 3」「1, 2, 3」とリズムを唱える。

全員で練習する。

②左手で四角を書く。

進行役は「1, 2, 3, 4」「1, 2, 3, 4」と

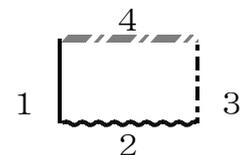
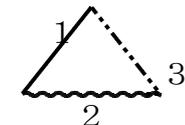
リズムを唱える。

全員で練習する。

③右手と左手を同時にする。

はじめはゆっくり行い、できるようになったら速くしていく。

④右手が4拍子、左手が3拍子にする。



《拍手でわ~~~~っ!》

◇準備物・・・紙（適当な大きさ）1枚

☆座ってできる。

- ①進行役が、紙を1枚、顔の前ぐらいから床に向かって落とす。
- ②参加者は、紙が床に落ちるまで、拍手をする。
- ③紙が床に落ちた瞬間に拍手をやめる。

床に落ちる瞬間は、後ろの方の席の人たちには見えないと思うが、「勘」を頼りに拍手をやめる。

※拍手に合わせて、「わ~~~~っ」と声を出してもよい。

※紙が落ちた瞬間に拍手や声が鳴り止んだら、「参加者の気持ち（みんなの心）が一つになってる」と、参加者を讃える。

《頭と体で反応：反対動き!》

☆グループで行う。

☆動きを伴う。

- ①進行役の指示と反対の動きを知らせる。
進行役が「右」と言ったら、「左」に1歩分ジャンプする。
「前」と言ったら、「後」に1歩分ジャンプする。

◇進行役の指示→反対の動き

右	→	左
左	→	右
前	→	後
後	→	前

- ②進行役の指示と反対の動きを、「進行役対1人」で練習してみる。
- ③近隣の4～5人で円を作る。
- ④みんなで向かい合って、手をつなぎ、①の動きを行う。
※「タイミングよく動く」「失敗しても大丈夫」ということを確認する。
※体調が十分でない参加者に配慮し、強要しないようにする。

【アレンジ編】

◇タイプA

- 進行役の指示と反対の動きをする時、動く方を声に出しながら動く。
例：進行役が「右」と言ったら、「左」と言いながら「左」に動く。

◇タイプB

- 進行役の指示と反対の動きをする時、言葉は進行役と同じ言葉を言いながら、動きは指示と反対の動きをする。
例：進行役が「右」と言ったら、「右」と言いながら「左」に動く。

子どものサイン発見チェックリスト(家庭用)

年 組 ()

以下の項目を参考に、お子さまの様子を観察してみてください。当てはまる項目があり、それが度重なるようでしたら、担任に御相談ください。

項 目	○×
1. 表情が暗くなり、言葉数が少なくなった。	
2. 学校のことをあまり話さなくなった。	
3. 朝から体の不調を訴え、登校をしぶるようになった	
4. 感情の起伏が激しくなり、親や兄弟姉妹に反抗したり、八つ当たりしたりするようになった。	
5. すり傷やあざ等を隠すようになった（風呂にはいることや裸になることを嫌がる、自分でけがをしたという）。	
6. 家族と過ごすことを避け、部屋にひとりでいることが多くなった。	
7. 友だちからの電話に、暗い表情が見られるようになった。	
8. 学用品をなくしたり、壊すことが増えた。	
9. 教科書やノートに落書きをされたり、破られたりするようになった。	
10. 衣類が破れていたり、汚れていることが増えた。	
11. 食欲がなくなった。	
12. 言葉遣いが乱暴になった。	
13. 家から品物やお金を持ち出したり、金品を要求したりするようになった。	
14. 不審な電話や嫌がらせの手紙が来るようになった。	
15. 友だちからの電話で、急に外出することが増えた。	
16. 投げやりで集中力が続かないようになった。	
17. 「引っ越しをしたい」「転校したい」と言うようになった。	
18. 友だちへの口調が命令口調になっている。	
19. 家で買い与えた物ではない物を持っている。	
20. 家で与えた以上のお金を持っている。	

○上記以外で、お子さまの様子に気になることがありましたらお書き下さい。

この「家庭での取組」はPTA行事等で保護者への啓発資料として作成しています。

(2) 家庭での取組

ア 親としての基本的な姿勢

聴きましょう。

子どもの話を聴きましょう。
子どもが安心して心のうちを話し、
自分自身で考える力がつくような、
そんな話の聴き方をしましょう。
「そう」「それで...」「うんうん...」
「なるほど。そうか...」「それから？」
と会話を続けられれば、とても
穏やかで幸せな時間を共有
できます。



大好きだ！大好きだ！と伝えましょう。

子どもが小さいときは、一日一回はだっこし
たり手をつないだりしましょう。スキンシッ
プはとても大切です。家族にとっても社会に
とっても、必要とされている大切な存在であ
ることを、子どもの発達に応じて分かりやす
く伝えていきます。



自信を持って 叱りましょう。

～はっきりと
NOと言える親に～
親は親であることに自
信と責任を持って、断
固徹底して譲ることな
く叱るようにします。
優しさや愛情を持って
叱ります。



乳児には肌を離さないで
幼児には手を離さないで
小学生には目を離さないで
思春期の子どもには
心を離さないで

『ここ 食卓から始まる生教育』
内田美智子・佐藤剛史著より



話しましょう。

感情のおもむくまま叱っ
たりしないで、親の気持
ちを素直に伝えましょ
う。



心をこめてほめたり、 感謝の言葉を伝えたり しましょう。

「頑張ったね」、「ありが
とう」の言葉は子どものやる
気をはぐくみます。

家庭内のルールをつくりましょう。

家庭のルールは、親の愛情を子どもに伝えるものです。また、子どもに対し、
あなたは家族の一員であるのだと伝えるためのものです。

【くまもと家庭教育10か条】

- 第1条 伝えよう 愛しているよの メッセージ
- 第2条 朝昼晩 元気にあいさつ 習慣に
- 第3条 教えよう 事の善し悪し 躰から
- 第4条 「ありがとう」は 生きゆく心の 出発点
- 第5条 肥後っ子の あすを支える がまん力
- 第6条 自分の命 みんなの命 どれもが世界で1つだけ
- 第7条 家族仲良く 食事・団らん 心と体に栄養を
- 第8条 体験で 得られる本物 知と心
- 第9条 この子もあの子も 地域で子育て みんなの宝
- 第10条 わが家の1か条 あなたのご家庭で付け加えてください。



熊本県教育委員会

規則正しい生活習慣を身に付けさせましょう！

生活リズムを整えることは、心と身体を健康にし、社会性をはぐくみます！

基本的な生活習慣の中で、睡眠と食事は特に大事です！

早寝早起きは
なぜ大切なの
ですか？



大人の生活が変わり、子どもの生活がそれに引きずられているよね。
ぼくたち親の生活習慣も見直さないといけないね。

私たちの身体は、朝日を浴びることで体内時計がリセットされ、脳が目覚めます。
睡眠不足や不規則な睡眠は、「イライラする」「無表情になる」「攻撃性が高まる」など、子どもに影響を与えることがあります。



豆知識



体内時計は25時間だから、毎日24時間にリセットするんだよ。

成長に必要なホルモンの分泌には周期があり、適切な時刻に眠ることは、子どもの健やかな成長のためにとっても大切です。

朝食は、
どうして大切
なのですか？



朝食は一日の活力になる大切なものなのね！

朝食をとると体温が上昇して、身体は一日の活動の準備ができます。そして、寝ている間に失ったエネルギーを補給し、脳が活性化します。午前中の活動エネルギーとして、朝食はなくてはならないものです。

寝ている間もエネルギーや栄養素は少なくなっているんだよ。

便秘の予防にもなるのです。



よい睡眠習慣と望ましい食習慣の形成は、心の安定・身体の発達成長・学力の向上にも影響するのです。

イ 家庭で取り組む「親子のふれあい」

子どもの成長発達に応じた、親子のふれあいを大切にしましょう。

記念日や行事を
大切に過ごす！

家族の誕生日や思い出
の日に、みんなで祝い
したり、地域の行事（ど
んどや・もぐらうちなど）
に親子で参加し、ご近所
とのふれあいの楽しさを味わったりし
よう。

家族の温かさを確認！



今夜は、ノーテレビ、ノーゲーム、読書の日
毎週時間を決めて好きな本を持ち寄
り、静かに読書。

家族団らんのひとこま。
あら！お父さんやお母さ
んのお膝の上に座ってい
るのはだれかな？

ぬくもりが伝わってき
ます。

きっと会話が増えるはず。



一緒にお弁当をつくろう！

お弁当の日の献立決めから買い物、
調理、弁当詰めなど、子どものできる
ことを見つけて主体性を持たせて、弁
当づくりをやってみる！栄養も彩り
も、愛情もたっぷり！

自立弁当の

できあがり！



わが家の出来事ベストテン！

今日の、今週の、今月の……
心に残った出来事を、日常の話題にし
よう。1年の締めくくりは、家族みん
なが、私の出来事
ランキング発表！

今年の出来事

ベストテンは？



手作りおやつに挑戦！
体のことも考えて、
大好きなおやつは手作り
で。ポテトチップ・
おさつクッキーは簡単。
夏はアイス。冬は……。

ケーキを焼いたら、みんなにおいし
さのおすそ分け。

喜んでもらうとその心が伝わります。
みんなの笑顔がこぼれるよ。



家族みんなとコミュニケーション！
時間をつくって家族全員集合、お茶
タイムはいかが？

勉強の合間に休憩を
とって会話を楽しみま
しょう。

受験生は、軽い夜食もOK！



こんなことでも親子のふれあいができるんですよ！

日常のちょっとした時間を見つけて、あなたもいかがですか？

「行ってらっしゃい」「お帰りなさい」は聞こえるように！

お風呂で親子肌をあわせて、楽しいおしゃべり&スキンシップ。

送迎の車の中でのおしゃべりはなぜか素直になれるもの。

夕食は無理でも、朝ご飯はみんなそろってとりましょう。

なかなか時間が合わない家庭では、手紙でメッセージをどうぞ！



ウ 小学生の親として

キーワード 【小学生には目を離さないで】

小学校は幼児期よりさらに大きな集団の中で、生活・学習の基礎基本を身に付ける場です。しかし、子どもたちは新しい環境に適応していくことや、人間関係、さらには自分をどう表現したらよいかという、様々な不安を持っています。子どもたちが家庭を離れたところでしっかり頑張っていることを認め、励ます姿勢を持つことが大切です。

小学生の子育ての基本姿勢は……

- ・子どもの顔を見てしっかり話を聞きましょう。
- ・できる、できないだけで子どもを判断しないようにしましょう。
- ・つらいときは、SOSを出してもよいことを教えましょう。

～子どものよさを認め、サインを見逃さず、確かな成長を見守ろう～

学校生活



- ・どんな先生かな…
- ・友だちできるかな…
- ・仲良しの友だちと離れちゃった…
- ・算数が苦手だけど大丈夫かな…
- ・分からないって言えないよ
どうしよう… など

子どもの不安や悩み

遊び

- ・ちゃんと遊びたいけど遊んでくれるかな…
- ・遊んでいるときこんなことがあったけどどうすればいいんだろう…
- ・親や先生に言ってもいいのかなあ… など



- ・学級通信等は必ず読むようにしましょう。また、必要に応じ、担任の先生と連絡帳等で連絡をとり合いましょう。
- ・学校の行事にはなるべく参加しましょう。
- ・学校での子どもの様子を見てあげましょう。
- ・教科書、ノート、鉛筆等の学習用品をチェックし、落書きや破損等がないか見てあげましょう。

- ・誰とどこで遊んでいるか把握しましょう。
- ・よく遊ぶ友だちの親と親しくなり連絡をとり合いましょう。
- ・友だち関係で不安なことは、親だけで悩まず、担任や学年主任等、信頼できる人に相談しましょう。
- ・お金の管理、持ち物の変化に気をつけましよう。

家庭生活

子どもの不安や悩み



- ・家の人はいつも忙しそう。今日はほめてもらえなかったけど…
- ・家の人に心配かけたくないから言えないよ…

- ・この家族に必要な大切な存在であることを話しましょう。
- ・家族は仲良く、特に1・2年生はスキンシップを大切に。
(頭をなでる、抱きしめる。)
- ・睡眠を十分とらせましよう。(睡眠リズムは心の安定につながります。)
- ・食事は大切にしましよう。なるべく一緒に食卓を囲み、話をしましよう。
(朝ご飯は抜かないようにしましよう。体や心の大切なエネルギー源です。)
- ・自分で決めて、自分で行動できる力をつけましよう。小さなことから一つずつ。
- ・子どもの話は最後までしっかりと聞き、そのうえでアドバイスを一つしましよう。
- ・携帯電話等の利用は親がきちんと管理しましよう。ネット上の掲示板等への書き込みが子どもを不安にさせる要因になることがあります。



心配な点があったら、学校に相談しましよう！



すこやか子育て電話相談

熊本県教育委員会では、
子育ての悩みを夜間や土曜も電話で相談できる
「すこやか子育て電話相談」を開設しています。

ひとりで考え込まないで

子育ての悩みを話してみませんか？

実施時間

月～金曜日 午後5時～午後9時
土曜日 午後1時～午後5時
(祝日・年末年始と8月13日～15日を除く)

電話番号

096-354-8822

☆相談者は、匿名で悩みを相談することができます。

☆相談機関は、いろいろなところにあります。
まずは、誰かに自分の悩みを話してみることが1番です。
相談内容によって、専門性のあるところを紹介してもら
えることを、進行役（ファシリテーター）は、受講者に
伝えましょう。

その他の電話相談先 No. 1

子育ての悩みや不安についての相談 (熊本県立教育センター)

○すこやかダイヤル TEL 0968-44-7445

相談内容：子育て、いじめ、不登校等の相談、障がいのある子ども等の相談

相談時間：月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）午前9時～午後5時

学校教育・いじめ・不登校・障がいのある子ども等の相談

○熊本県立教育センター教育相談室 TEL 0968-44-6655

相談内容：子育て、いじめ、不登校等の相談、障がいのある子ども等の相談

相談時間：月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）午前9時～午後5時

子どものいじめに関する相談

○熊本県こどもいじめ相談電話（熊本県教育庁） TEL 0570-078310

相談内容：いじめ

相談時間：月曜日～金曜日 午後5時30分～翌日8時30分

休日は24時間対応

○いじめ電話相談（熊本市教育センター） TEL 0120-03-4976

相談時間：月曜日～金曜日 午前9時～午後5時

いじめ・不登校問題など

○熊本県教育庁義務教育課 TEL 096-381-8000

相談内容：いじめ、不登校問題

相談時間：月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）

午前8時30分～午後5時15分

○熊本市教育センター教育相談室 TEL 096-359-3221

相談内容：就学、学習、発達、いじめ、不登校など教育に関する相談全般

相談時間：月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）午前9時～午後7時

いじめ・不登校アドバイザー (熊本県各教育事務所)

相談内容：いじめ、不登校問題

相談時間：平日の週3日間（祝日、年末年始を除く） 午前9時～午後4時

○宇城教育事務所 0964-32-5768 (火・水・金)

○玉名教育事務所 0968-74-2232 (月・火・水)

○鹿本教育事務所 0968-44-0843 (月・水・金)

○菊池教育事務所 0968-25-3351 (火・木・金)

○阿蘇教育事務所 0967-22-1800 (月・火・木)

○上益城教育事務所 096-282-7145 (月・水・金)

※午前8時30分～午後3時30分

○八代教育事務所 0965-35-8550 (火・木・金)

※午前9時30分～午後4時30分

○芦北教育事務所 0966-82-4649 (月・火・木)

○球磨教育事務所 0966-22-1155 (月・水・金)

○天草教育事務所 0969-22-4127 (月・水・金)

その他の電話相談先 No. 2

○県内児童相談所

- ・熊本県中央児童相談所 ☎096-381-4451
- ・熊本県八代児童相談所 ☎0965-32-4426
- ・熊本市児童相談所 ☎096-366-8181
- ・児童相談所全国共通ダイヤル ☎0570-064-000

※各児童相談所における

- ・相談内容：子どもの発達、しつけ、非行、子育て、虐待など
- ・相談日：月曜日から金曜日（祝日、年末年始を除く）
- ・相談時間：午前8時30分～午後5時15分

※緊急虐待情報は24時間受け付けています。

○子ども110番（県中央児童相談所内） ☎096-382-1110

相談内容：児童を有する家庭等の悩み、問題行動について

相談時間：月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）
午前9時～午後4時

○「キッズ・ケア・センター」（児童養護施設「シオン園」）

☎0968-62-0222

相談内容：子育てやしつけ、非行、虐待、学校のことなど

相談時間：午前8時～午後6時 電話対応は年中無休

○家庭児童相談室（各地区福祉事務所）

相談内容：子育ての悩み、児童虐待、不登校、発達の遅れに関すること 等

- ・宇城福祉事務所 ☎0964-32-2111
- ・玉名福祉事務所 ☎0968-74-2111
- ・鹿本福祉事務所 ☎0968-43-5521
- ・菊池福祉事務所 ☎0968-25-4111
- ・阿蘇福祉事務所 ☎0967-22-1111
- ・上益城福祉事務所 ☎096-282-2111
- ・八代福祉事務所 ☎0965-33-3111
- ・芦北福祉事務所 ☎0966-82-3111
- ・球磨福祉事務所 ☎0966-22-1040
- ・天草福祉事務所 ☎0969-22-4111

※各地区福祉事務所における

- ・相談日：月曜日から金曜日
- ・相談時間：午前9時～午後4時

子どもの

非行等に関する相談（熊本県警察本部生活安全部少年課）

○肥後っ子サポートセンター

☎0120-02-4976

相談内容：子どもの非行、犯罪被害等に関する相談

相談時間：月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時15分

土日、祝祭日は留守番電話対応

その他の電話相談先 No. 3

こどもの人権（熊本地方法務局人権擁護課）

○子どもの人権110番

☎ 0120-007-110

相談内容：「いじめ」や体罰、不登校や親による虐待、その他子どもをめぐる人権問題

相談時間：月曜日～金曜日（祝祭日、年末年始を除く）
午前8時30分～午後5時15分

発達障害（自閉症、アスペルガー症候群等）に関する相談

○熊本県発達障害者支援センター「わっふる」

☎ 096-293-8189

相談内容：発達障がい（自閉症、アスペルガー症候群等）に関する相談

相談時間：月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）午前9時～午後5時

夜間の子どもの急病やケガ等の相談

○熊本県小児救急電話相談（熊本県医師会、熊本市医師会）

☎ #8000番

（※I p電話、光回線、ダイヤル回線の場合は、096-364-9999）

相談時間：毎日 午後7時～午前0時

同和問題をはじめとする様々な人権問題

○熊本県人権センター

☎ 096-384-5822

相談内容：同和問題をはじめとする様々な人権に関する相談やこころの悩み等

相談時間：月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）
午前9時～正午、午後1時～午後4時

こころの悩みに関する相談

○熊本こころの電話（社団法人 熊本県精神保健福祉会）

☎ 096-285-6688

相談内容：病苦、家庭問題、精神的問題、心身の悩み等

相談時間：年中無休 午前10時～午後10時

○熊本いのちの電話（社会福祉法人 熊本いのちの電話）

☎ 096-353-4343

相談内容：精神的葛藤と苦悩に関する相談

相談時間：年中無休 24時間

教育上の悩みや非行・虐待など児童の福祉

○こころの健康相談（熊本県精神保健福祉センター）☎096-386-1166

相談時間：月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）午前9時～午後4時

夫やパートナーからの暴力に関する相談

○DV電話相談（熊本県福祉総合相談所）

☎096-381-7110

相談時間：月曜日～金曜日（年末年始を除く）午前8時30分～午後10時
土・日・祝日 午前9時～午後10時

くまもと家庭教育10か条

第1条 家族の信頼感
伝えよう
愛しているよのメッセージ

第2条 あいさつの習慣化
朝昼晩
元気にあいさつ 習慣に

第3条 善悪の区別
教えよう
事ことの善よし悪あし 躰しつけから

第4条 感謝の心
「ありがとう」は
生きゆく心の 出発点

第5条 我慢する力
肥後っ子の
あすを支える がまん力りょく

第6条 命の大切さ
自分の命 みんなの命
どれもが世界で1つだけ

第7条 食事・団らん
家族仲良く 食事・団らん
心と体に栄養を

第8条 体験の意義
体験で 得られる本物
知と心

第9条 地域全体での子育て
この子もあの子も
地域で子育て みんなの宝

第10条 わが家の1か条
(あなたのご家庭で付け加えて
ください。)

くまもと家庭教育10か条は
熊本県教育委員会のホームページからダウンロードができます。
<http://kyouiku.higo.ed.jp/shougai/001/katei10/>



子ども輝き条例のポイント

～すべての子どもが生き生きと輝くように、県民みんなで子どもの育ちを支えましょう～

お部屋には
はってね



すべての子どもは、
世界に一人のかけがえの
ない存在です

わたしたちは、
一人一人が
主人公だよ。



「子育て楽しか
フォトコンクール
入選作品」

子ども一人一人の
権利や個性を認め、
子どもにとって何が
一番いいのかを考えます

ほくたちの
気持ち(意見)も、
ちゃんと聞いてね。



人とくらべないで、
私のいいところを
みつけてね。

このような考え方を
大切にしましょう
(第3条)



すべての子どもは、
愛情を感じながら、
安心して育つことが
できます

いつも
ほくたちのことを
見ていてね。



命を大切にし、
他人を思いやり、
感謝すること



思いやり
のある人
になりたいな。

ルールを守り、
家庭や地域での
自分の役割を果たすこと



私たちの手本に
なってほしいな。



ふるさとや自然、
文化や伝統などを
大切にすること

熊本の自然を
未来に
残さなきゃね。



子どもたちが
心豊かに育つために
伝えていきましょう
(第5条)



夢を持ち、
働くことの大切さを知り、
困難を乗り越え、
自立していくこと

夢に向かって
チャレンジしたい!



いろいろな人とふれあい、
いろいろな体験ができる



よく学び、よく遊び、
よく食べ、
よく眠らせてね。

いろいろな可能性や
自ら伸びていく力が
引き出される



失敗しても怒らないで、
がんばったらほめてね。

このような子どもの
育ちの環境を
つくっていきましょう
(第4条)

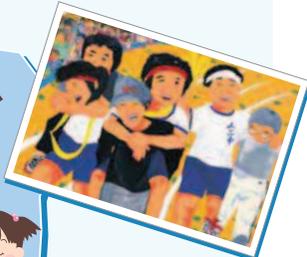


いじめや虐待などから
守られる

ほくたちを
あぶないことから
守ってね。



孤立感を持つことなく、
人のつながりの中で
育つことができる



悩みを聞いてほしいな。
そして、みんなで一緒に
がんばろうね。



それぞれの役割をはたしましょう
(第6条・第7条)

保護者

子どもにとって一番大切な存在です。
愛情をもって接し、自らも成長していく
よう努めましょう。

学校・保育所等

自らの専門性を高め、互いに協力し、子
どもの育ちを支えていきましょう。

県民・事業者等

子どもの育ちを地域及び社会全体で支
えていきましょう。

県

子どもに係る施策を計画的に推進し、県
民一人一人の取組が進むよう、必要な支
援を行います。

それぞれの立場で、子どものために
できることをしましょう(第8条)
～毎月15日は肥後っ子の日です～



例えば…



保護者
→家庭団らん

保育所等
→施設の開放

地域
→世代間交流

お店
→子育て家庭
への優待



関連ホームページや資料の紹介

【熊本県ホームページ】

<http://www.pref.kumamoto.jp/>

【熊本県教育委員会ホームページ】

<http://kyouiku.higo.ed.jp/>

【くまもと子育て支援情報サイト】

※熊本県子ども輝き条例が掲載されています。

http://portal.kumamoto-net.ne.jp/kosodate_info/content/default.asp

【早ね早おき朝ごはんコミュニティサイト】

<http://www.hayanehayaoki.jp>

【文部科学省家庭教育手帳】

http://www.mext.go.jp/a_menu/shougai/katei/main8_a1.htm

○平成17年度人権教育推進資料

豊かな人権感覚を育むために

熊本県教育委員会

○人権教育の指導方法等の在り方について

〔第三次とりまとめ〕

文部科学省

○「早寝早起き朝ごはん」指導者資料

早寝早起き朝ごはんガイド

「早寝早起き朝ごはん」全国協議会

○DVD はじめよう！早寝早起き朝ごはん

熊本県教育委員会